

法人本部事業報告書

1 法人の目的事業

この法人は、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援するために、次の社会福祉事業を行うことを目的とする。

<社会福祉事業>

(1) 第一種社会福祉事業

(イ) 特別養護老人ホームの経営 南風・第二南風・花菜風

(2) 二種社会福祉事業

(イ) 老人デイサービスセンターの経営 デイサービスセンター南風
第2 デイサービスセンター南風

(ロ) 老人短期入所事業の経営

<公益を目的とする事業>

(1) 居宅介護支援の事業

(2) 地域包括支援センターの事業

(3) 介護予防支援の事業

<地域における公益な取組>

(1) 浜松市学習支援事業受託事業「寺子屋しんづ」の運営（民児協との協働）

(2) 介護予防教室「^{たのしんで}楽心出」の運営支援、体操の指導及び会場提供

(3) 南風バンドによる出前講演と音楽、地域住民に対する福祉教育

(4) 実習生の受入れ（地域住民に対する福祉教育）

(5) 県社協主催「福祉の仕事魅力発見ツアー」ほか講師派遣

* 秋祭りなどの地域行事やバザール南風（その他：地域への施設提供）などは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、中止となりました。

2 理事会・評議員会の開催

令和4年度における法人の業務を審議・決定するために、次のとおり評議員会及び理事会を開催した。

評議員・評議員会 法人運営に係る重要事項の議決機関

理事・理事会 法人の業務執行の決定機関

監事 理事の職務執行及び法人の財産状況を監査する機関

<理事会>

第1回理事会

(1) 開催日 令和4年5月25日(水)

(2) 出席者 理事6名、監事2名

(3) 議題

- 第1号報告 理事長の職務執行状況報告について
- 第1号議案 令和3年度事業報告及び令和3年度計算関係書類並びに財産目録の承認について
- 第2号議案 賃金規程の一部変更について
- 第3号議案 インターネットバンキング利用規程について
- 第4号議案 特別養護老人ホーム南風修繕工事について
- 第5号議案 特別養護老人ホーム南風修繕工事に係る資金調達（銀行借入）について
- 第6号議案 定時評議員会の召集について

第2回理事会

- (1) 開催日 令和4年12月7日（水）
- (2) 出席者 理事6名、監事2名
- (3) 議題
 - 第1号報告 理事長の職務執行状況の報告
 - 第2号報告 令和4年度社会福祉施設等の指導監査について
 - 第3号報告 令和4年度事業の中間報告について
 - 第1号議案 令和4年度第1次補正収支予算について
 - 第2号議案 南風2階3階改修工事に係る入札及び入札結果について
 - 第3号議案 就業規則の一部改正について
 - 第4号議案 新入職員紹介料に関する内規の制定について
 - 第5号議案 借地の次年度契約更新について
 - 第6号議案 南風副施設長の解任について
 - 第7号議案 臨時評議員会の召集について

第3回理事会

- (1) 開催日 令和5年3月8日（水）
- (2) 出席者 理事5名 監事2名
- (3) 議題
 - 第1号報告 理事長の職務執行状況の報告
 - 第2号報告 令和4年度社会福祉施設等の指導監査の結果について
 - 第1号議案 令和4年度第2次補正収支予算について
 - 第2号議案 令和5年度事業計画について
 - 第3号議案 令和5年度資金収支予算について
 - 第4号議案 令和5年度業務委託契約について
 - 第5号議案 就業規則の一部改正について
 - 第6号議案 新評議員候補について
 - 第7号議案 臨時評議員会の招集について

<評議員会>

第1回定時評議員会

(1) 開催日 令和4年6月10日(木)

(2) 出席者 評議員8名 監事2名

(3) 議題

第1号報告 第1号議案 理事長の職務執行状況について

第2号報告 令和3年度事業報告について

第1号議案 令和3年度計算書類及び財産目録の承認について

第2号議案 賃金規程の一部変更について

第3号議案 インターネットバンキング利用規程について

第4号議案 特別養護老人ホーム南風修繕工事について

第5号議案 特別養護老人ホーム南風修繕工事に係る資金調達（銀行借入）について

第2回評議員会

(1) 開催日 令和4年12月20日(火)

(2) 出席者 評議員6名

(3) 決議事項

第1号報告 理事長の職務執行状況の報告

第2号報告 令和4年度社会福祉施設等の指導監査結果について

第3号報告 令和4年度事業の中間報告について

第4号報告 南風多床室の個室化工事にかかる入札について

第5号報告 土地自動更新分の次期契約について

第1号議案 令和4年度第1次補正収支予算の承認について

第2号議案 就業規則の一部改正について

第3号議案 嘱託医の業務委託契約の更新について

第3回評議員会（決議の省略）

(1) 開催日 令和5年3月23日(木)

(2) 出席者 評議員7名

(3) 議題

第1号報告 理事長の職務執行状況報告について

第2号報告 就業規則の一部変更について

第3号報告 令和5年度業務委託契約について

第1号議案 令和4年度第2次補正収支予算について

第2号議案 令和5年度事業計画について

第3号議案 令和5年度資金収支予算について

2 入職者・退職者の状況（法人全体）

	採用者数 (人)			離職者数 (人)		
	正職員	契約職員	合計	正職員	契約職員	合計
介護職員	6(南・第二・花)	4(南・第二・2デ)	10	3(第二)	3(南・第二)	6
看護職員	1(第二)		1		1(第二)	1
機能訓練指導員	3(南・第二)		3	2(第二)		2
生活相談員	1(2デ)		1	1(2デ)		1
介護支援専門員				1(包括)		1
栄養士						
事務員					1(花)	1
その他	1(包括)	2(南・デイ)	3		5(南・花・デイ)	5
合計	11	6	17	8	8	16

3 年次有給休暇平均取得日数（法人全体）

事業所名		(南風)			(第二南風)		
区分	種類	取得日数	付与日数	取得率	取得日数	付与日数	取得率
介護職員	正規	258.0 日	341.0 日	75%	169.0 日	237.0 日	71%
	契約	79.5 日	91.0 日	87%	155.5 日	169.0 日	92%
看護職員	正規	46.0 日	65.0 日	70%	40.0 日	40.0 日	100%
	契約				15.0 日	5.0 日	100%
その他	正規	123.5 日	126.0 日	98%	79.5 日	82.0 日	96%
	契約	116.5 日	126.0 日	97%	50.5 日	81 日	62%
事業所		(花菜風)			(デイサービス)		
区分	種類	取得日数	付与日数	取得率	取得日数	付与日数	取得率
介護職員	正規	128.0 日	190.0 日	67%			
	契約	80.0 日	80.0 日	100%	273.0 日	273.0 日	100%
看護職員	正規	40.0 日	40.0 日	100%	26.5 日	40.0 日	66%
	契約	7.0 日	18.0 日	38%	20.0 日	20.0 日	100%
その他	正規	28.0 日	38.0 日	73%	55.5 日	72.0 日	77%
	契約	18.0 日	18.0 日	100%	17.5 日	27.0 日	64%
事業所		(第2 デイサービス)			(居宅介護支援)		
区分	種類	取得日数	付与日数	取得率	取得日数	付与日数	取得率
介護職員	正規						
	契約	205.0 日	215.0 日	95%			
看護職員	正規	18.0 日	20.0 日	90%			

	契約	44.5 日	40.0 日	100%			
その他	正規	68.0 日	78.0 日	87%	104.0 日	152.0 日	68%
	契約	24.0 日	20.0 日	100%	37.5 日	40.0 日	93%
事業所		(包括支援)			(全体)		
区分	種類	取得日数	付与日数	取得率	取得日数	付与日数	取得率
介護職員	正規				555.0 日	768.0 日	72%
	契約				793.0 日	828.0 日	96%
看護職員	正規				170.5 日	205 日	83%
	契約				87.0 日	93.0 日	94%
その他	正規	82.5 日	92.0 日	91%	541.0 日	640.0 日	85%
	契約				264.0 日	312.0 日	85%

4 育児休業取得者の割合

- (1) 令和4年4月1日から令和5年3月31日までの1年間に在職中に出産した女性(1人)のうち、令和5年4月1日までに育児休業を開始した者(1人)の割合は100%でした。

$$\text{育児休業取得率} = \frac{\text{出産者のうち、調査時点までに育児休業を開始した者の数 (1人)}}{\text{調査前年度1年間の出産者の数 (1人)}}$$

- (2) 上記育児休業開始者の延べ育児休業取得日数は304日でした。
- (3) 育児休業終了後の復職者及び退職者の割合は、復職者100%で退職者は0%でした。
なお、復職者は「育児短時間勤務」制度又は労働契約の変更により短時間勤務での復職となっています。

5 労働災害の発生状況

- 令和4年度は腰痛・転倒などの「動作の反動・無理な動作」により、休業3日以内3件、同4日以上2件、新型コロナウイルス関連14件の労働災害が発生しました。
- 新型コロナウイルスに係る法人独自の濃厚接触者認定による特別休業補償は全体で110日分423,039円となりました。

6 寄附の状況

(1) 寄付金

受入日	寄附者氏名	種類	金額	使途目的
令和4年4月23日	宮地 良次	現金	50,000 円	法人
令和4年12月27日	浜松ウェスレアン教会	現金	10,000 円	法人

(2) 寄附物品

受入日	寄附者氏名	品目	使途目的
令和4年6月24日	浜松茶農業協同組合	新茶 300g×4 袋	施設（南風・花葉風）
令和5年2月15日	県退職公務員連盟	フェイスタオル他	施設

7 その他（浜松市学習支援事業業務の状況）

令和5年度において、新津地区民生委員児童委員協議会及び学習支援ボランティアと協働して実施した「寺子屋しんづ」の活動状況は、次のとおりです。

なお、地域の篤志家の方からは、子どもたちのためにタブレット購入資金のご寄附をいただき、タブレット(iPad)1台を購入しました。また、静岡県西部解体工事業協会様からは、浜松市をとおして子どもたちにお菓子をいただきました。

(1) 実施回数 42回

(2) 登録人数 26人（うち登録辞退者8名）

(3) 学習支援ボランティア 延べ310人（支援管理者を除く）

(4) 運営ボランティア 延べ39人

(5) 参加状況

区分	登録人数		世帯区分別人数（再掲）		
	実人数	延参加人数	生活保護	ひとり親	その他
小学4年	1人	12人	0人	12人	0人
小学5年	7人	73人	12人	49人	12人
小学6年	4人	39人	1人	38人	0人
中学1年	4人	26人	13人	13人	0人
中学2年	2人	22人	0人	22人	0人
中学3年	3人	27人	24人	3人	0人
小学3年	5人	43人	13人	30人	0人
合計	26人	242人	63人	167人	12人

8 所感

令和4年度は、前年同様に新型コロナウイルス感染症への対応に追われる一年でしたが、今年5月より5類への移行によって「ウイルスとの共存」する生活となり、施設としても適切な感染対策を考えながら、入所者・利用者及びその家族や地域ボランティアの方々との関係の再構築を図るべく動き出しています。

経営状態については物価高騰に伴う支出の増加や居宅事業の伸び悩みによる費用増加がある一方、特養南風の収益改善や補助金活用により、若干の黒字計上となりましたが、

令和 5 年度以降は補助金が減少する可能性があることから、居宅事業の収益改善及び施設事業の収益維持を継続する。

令和4年度社会福祉法人ほなみ会施設事業報告

令和4年度は、特別養護老人ホーム南風で7月と12月に新型コロナウイルスクラスターが発生した。2回のクラスター共に短期入所からの感染拡大となり、特養と短期入所が混在している施設での感染対策が困難であることを痛感した。クラスター発生時には、法人全職員が協力して応援体制を構築し、他法人等からの応援職員を要請することなく終息が迎えられたのは、法人として事業継続の大きな自信となった。

また、令和4年4月1日より特養南風を従来型よりユニット型に変更し、サービスの内容を変更すると共に、施設内の改装工事も実施した。コロナ禍での大きな変更となったが、大きな事故も無くユニット型特養としての運営ができ、増収につながった。

施設事業として三年間継続して【承認】の取り組みを実行した。職員のみでなく、入居者を含めて互いに認め合う意識が高まり、組織力の向上に向けた土台となる取組みとなった。今年度以降もこの土台に様々な取り組みを積み重ね、職員一人ひとりが主体性を持って働き、入居者が「その人らしく」暮らせる施設を構築できる組織に成長したい。

入居稼働率については、昨年度に比べて3%減少した。要因として、コロナ感染が大きく影響し、次期入居者として準備していた方がコロナ感染のため入居延期となる事や、入所中の施設がクラスター発生のため、アセスメントができない等対応に苦慮することが多かった。また、各施設の事故発生件数も増加している。現在、事故防止委員が中心となり事故の詳細を検証し事故防止対策を実施している。

令和4年度は、各ユニットや職種の事業計画に対する達成度を職員アンケート結果の平均ではあるが、全項目に対し評価した。各事業所の達成度平均も併せて報告する。

	南風	第二南風	花菜風
稼働率	97.3%	98.9%	98.8%
入職者	嘱託医 1名 正規介護職 3名 機能訓練指導員 1名	正規介護職 1名 正規看護職 1名 機能訓練指導員 1名 介護補助員 2名	正規介護職 2名
離職者	嘱託医 1名	正規介護職 1名 契約介護職 1名 事務員 1名	介護補助員 1名
有給取得率	82.5%	74.8%	76.7%
取り組み達成度平均	64.3%	65.4%	67.6%
苦情受付	0件	0件	0件
行政報告事故	9件	7件	4件

※各事業所詳細の事業報告は別紙参照

《地域活動及び外部連携事業》

地域活動や外部との連携は、施設長のみでなく多職種が参加して地域福祉の推進や、福祉の仕事人材確保に積極的に協力をしている。一年間の活動を報告する。

1. 倉松町自治体

11月5日	地区社協倉松支部	倉松町焼き芋大会
3月11日	倉松町防災	津波避難防災訓練

2. 静岡県事業

7月12日	法人訪問	静岡県移動知事室
9月18日	介護の未来ナビゲーター	ナゾとき・カイゴ
10月18日	介護の未来ナビゲーター	浜松大平台高等学校
12月14日	介護の未来ナビゲーター	磐田北高等学校

3. 浜松市事業

通年	浜松市介護保険課	介護人材確保推進検討委員会
----	----------	---------------

4. 静岡県社会福祉協議会事業

6月2日	湖西市立岡崎小学校	セミナー
6月7日	鹿島学園高校	セミナー
6月22日	浜松市立中ノ町小学校	セミナー
7月5日	浜松市立二俣小学校	セミナー
7月28日	福祉のしごと学び体験ツアー	セミナー
9月3日	静岡新聞オトナインターシップ	法人職員紹介
9月29日	浜松市立新津小学校	セミナー
10月6日	浜松市立葵ヶ丘小学校	セミナー
10月13日	浜松市立開成中学校	セミナー
10月20日	浜松市立伊佐見小学校	セミナー
11月7日	静岡県立大学短期大学部	ゲストスピーカー

5. その他

7月8日	浜松市社会福祉施設協議会老人部会	介護職員研修（オンライン）
2月21日	県立大学短期大学部	教員施設見学
2月26日	一般社団法人くすり mate	みんなで選ぶ施設アワード
3月11日	聖隷クリストファー大学	社会福祉学会シンポジウム
通年	静岡県老人福祉施設協議会	研究大会実行委員会
通年	浜松市社会福祉施設協議会	監事

令和4年度特別養護老人ホーム南風事業報告

I.総括

令和4年度は、従来型特養からユニット型特養に移行した。多床室の個室化は令和3年度に実施したが、その他の居室や共有部分の改修工事を実施した。工事と同時にコロナクラスターが2回発生し、多くの入居者や職員が感染し混乱が生じたが、大きな事故もなく工事は終了した。

また、施設の課題を解決するために「承認」のスキルを用いて対応した。課題は明確化されているが、取り組みが継続しないことが一番の課題点になった。しかし、職員育成には承認スキルを用いて、指導者と新入職員が現状を共有し、双方に不安がなく個々に合った指導方法で取り組むことができた。各ユニットに新入職員の配属があったことも全体で取り組めた大きな要因であり、新入職員の成長につながった。また、職員指導の一環として医療依存度が高い入居者対応のため、専門職と連携した勉強会の開催し知識を深めた。さらに課題解決の一つとして、事故事例検討会を南風独自に行い、予測や対応力の向上を図った。原因や誘因を多職種で考え、個別ケアにつながった。

年間稼働率の目標を99.5%と掲げたが97.3%と目標値を下回った。クラスター発生もあり入居への支援の対応が遅れたことが原因の一つである。また、有給取得率についてはコロナ感染などの体調不良での取得が多かったが、82.5%となった。

以下の各部署の評価を報告する。

1.介護職員

【なずな】

- ① ケース記録やユニット会議内で職員側の発信が増え、記録の充実化につながったが、ケアに反映するケースが少なく課題が残った。達成率70%
- ② アセスメントをとり根拠から考えることで課題解決を行うことができた。限られた入居者だけとなってしまいユニット入居者全員に行うことはできなかった。達成率53%
- ③ ケア内容の伝達がうまくいかず、統一したケアを行うまで時間がかかってしまった。達成率30%

【すずしろ】

- ① 家事作業が日常生活の一部となり、生活に役割ができたが、意向を伝えることができない入居者に対しての「出来ること」の探り出しが不十分だった。達成率70%
入居者の「やりたいこと」については、上半期は力を入れて取り組めたが、下半期は持続できないことが多かった。達成率65%
- ② 介護職として「なりたい姿」目標を共有することで、各々の取り組みがわかりサポートしやすい関係性ができた。振り返りを定期的に行ったが、面談も合わせることで成長につながると実感している。達成率50%

【なでしこ】

- ① 会議前に検討事項を考えて臨むことで、会議が報告の場でなく、話し合いの場にできた。達成率 82%
- ② 共有ノートの活用方法を改善することで、多職種からも意見が集まるようになり課題抽出にもつながった。達成率 68%
- ③ ユニット職員としてカンファレンスを開催することが少なく参加になってしまった。開催できなかったという意見も多く、苦手意識があると感じた。達成率 50%

【ききょう】

- ① 入居者情報共有ファイルを作成することで、気づきや疑問からケアの見直しに繋がり、会議でケア決定まで行きつくことが増えた。達成率 40%
- ② 入居者のニーズに合わせた余暇活動の達成はできておらず、職員の計画した活動、レクリエーションに入居者が参加している状態である。入居者からのやりたいことの聞き取り、やりたいことができる環境作りを整え、集団から個別に目を向けることが課題となる。達成率 0%

2. 看護職員

- ① 回診前に、カンファレンスを行い回診の流れ、処置、現状の共有を行うことができ、解決・向上にもつなげ概ね達成できた。達成率 100%
- ③ コロナ感染等で外部研修への参加が出来なかった。目標達成できず。達成率 0%
- ④ コロナ対応、対策で制限もあり他施設交流が難しかった。体制は整っているが連携できるような情報交流が少ない。合同宅直も含め課題が残る。目標達成できず。達成率 0%

3. 管理栄養士

- ① 50 名中 24 名の入居者より嗜好調査を実施し（回答率 48%）、多職種からの意見を記録からも参考とした。
低栄養リスクが高リスク者いず、中リスク者も令和 5 年 3 月で 40%と令和 4 年 4 月より 6%軽減した。
- ③ コロナ感染対策の為、給食会議の開催回数が少なかった。施設職員と委託業者からの意見をもとに第二南風栄養士とともに調整に努めた。達成率 67%
- ④ 食事摂取状況の変化や体重の増減な著明な入居者に対し、会議前に事前に担当職員へ情報提供できた。達成率 80%
ユニットでのおやつレク実施時、衛生面の注意事項を担当職員へ伝えた。達成率 70%

4. 歯科衛生士

- ① カンファレンスやミールラウンド等で嚥下機能評価定期的に行うことで利用者に合っ

た食事ケアができるようになった。達成率 100%

- ② 施設配置固定や連絡事項ファイルを使用することで、連携が取れ問題解決が速やかになった。達成率 80%

利用者の口腔内のトラブルが減少、突発的な歯科受診が少なくなった。達成率 100%
誤嚥性肺炎で入院する入居者は毎年全体の 1%以下を維持できている。達成率 95%

5.機能訓練指導員

- ① 姿勢援助についてタブレット等を活用したことで、多職種にわかりやすく伝えることができケアの統一につながった。達成率 100%
- ② 感染対策のため、会議が開催できないこともあった。情報共有のフォルダーやタブレットを活用し、他施設の課題共有を工夫したが、十分とは言えなかった。会議開催を毎月行うよう変更していく。達成率 80%
- ④ 入居者から目標の聞き取りをしたことで前向きは発言が多く聞かれるようになった。個別機能訓練計画書へ聞き取りした目標を反映し、ADL・QOLの向上に繋げることができた。達成率 100%

6.相談員

- ① 事例検討会が途中からできず、援助技術の向上について努めることが不十分であった。達成度 50%
- ② 事件事例検討会の開催を呼びかけ、現場からも自主的に行うことが増え対策を明確化することができた。事故件数の減少にはつながっていない現状がある。達成率 60%
- ③ クラスター感染時に感染者の状態報告が遅れてしまい、他相談員と今後も共同していくことに合わせ感染マニュアルも変更した。日々の生活や体調についてはこまめな連絡を行えた。達成率 70%

7.介護支援専門員

- ① サービス担当者会議が定着化し、多職種が共同していく場は形となっている。
目標の確認ではなく、目標の変更時の周知となってしまう。問題解決ではなく目標に沿った意見が抽出できる運営としていく。達成率 50%
- ② 入居者・家族の言葉や意向をニーズにあげプランの作成を行っているが、ケア内容に目が向きがちで周知ができていない。入居者・家族の意向を達成するため多職種連携したケアプランを 24 時間シートに確実に連動していくことが課題と残る。達成率 30%

IX.短期入所生活介護

- ① 本人・家族の意向を確認しケアプランに反映した。アセスメント表を改善し、本人の意向等を明確化し、ケアの統一を図った。達成率 70%
- ② 感染対策もあり、例年以上に介護支援専門員や家族と情報共有する機会が持てた。達成率 80%
- ③ 施設のコロナ感染や特養の改修工事もあり、運営を中止せざるを得ない時期が多く稼働率の低迷となった。他事業所周りを行うことで、他事業所からの新規利用依頼が増えた。達成率 50%

【年間稼働率】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
57%	68%	88%	45%	61%	81%	82%	76%	61%	78%	83%	86%

介護保険事業者事故報告（浜松市へ報告事例）

1 件

居室扉外で転倒しているところを発見する。右外踝骨折し受診対応。

Ⅱ. 入居者の状況

1. 入退去状況

入退 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	2	0	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0	10
退去	2	0	0	0	2	1	0	1	1	0	0	0	10

2. 退去理由

理由 性別	在宅復帰	要支援	介護保険施設	病院	死亡（病院）	死亡（南風）	計
男	0	0	0	0	2	2	4
女	0	0	0	1	0	2	3
計	0	0	0	1	2	4	7

3. 今年度入居者の入居前の状況

区分 性別	家庭	介護保険施設	福祉施設等	医療機関	計
男	3	0	0	0	3
女	3	0	0	1	4
計	6	0	0	1	7

4. 年齢別（令和4年3月31日現在）

年齢 性別	～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳
男	0	1	1	2	0	2
女	1	0	5	3	5	8
計	1	1	6	5	5	10
年齢 性別	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	計	平均年齢	
男	1	2	0	9	84歳	
女	11	5	3	41	87歳	
計	12	7	3	50	86歳	

5. 要介護度別入居者数一覧及び要介護度

【実入居者数】 ※各月末実数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	25
要介護2	6	6	5	5	5	6	6	6	5	5	5	3	63
要介護3	23	23	23	23	23	23	22	21	22	22	21	23	269
要介護4	8	7	8	8	10	9	9	9	9	9	10	9	105
要介護5	12	12	12	12	12	10	10	12	12	12	12	13	143
合計	52	50	50	50	52	51	50	50	50	50	50	50	605
平均介護度	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5

【延入居者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	63	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62
要介護2	180	186	150	155	155	154	186	178	155	155	140	93
要介護3	664	713	690	713	691	669	682	630	656	682	588	713
要介護4	199	217	240	248	274	270	279	270	264	266	280	279
要介護5	360	372	360	372	353	330	341	360	372	372	336	403
合計	1466	1550	1500	1550	1535	1483	1550	1498	1509	1537	1400	1550
稼働率（%）	94.5	100	96.7	100	99	95.6	100	96.6	97.3	99.1	90.3	100

6. 入院状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	1	0	0	4	0	1	1	1	0	0	0	1

入院期間	10日未満	10～20日	21日～30日	30日以上	計
人数	2	5	2	0	9

※入院日及び退院日を含む

7. 外泊(延人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅲ. 入居者の生活状況（令和4年3月31日現在）

1. 食事状況

性別	区分 自立 (見守り含)	一部介助	全介助	経管栄養	計
男	7	1	1	0	9
女	27	3	11	0	41
計	34	4	12	0	50

2. 入浴状況

性別	区分 見守り/声かけ	一部介助	全介助	計	一般浴	中間浴	機械浴(寝浴)	計
男	0	3	6	9	4	3	2	9
女	0	22	19	41	13	17	11	41
計	0	25	25	50	17	20	13	50

3. 排泄状況

性別	区分 自立(排泄前後の確認含)	誘導介助	オムツ介助	計	夜のみオムツ	膀胱ろう	バルーンカ テーテル
男	3	3	3	9	1	0	0
女	11	19	11	41	7	0	1
計	14	22	14	50	8	0	1

4. 移動状況

性別	区分 独歩(不安定含)	杖	車椅子	車椅子(介助)	シルバーカー	歩行器	計
男	1	0	4	3	0	1	9
女	8	2	4	18	2	7	41
計	9	2	8	21	2	8	50

5. 更衣状況

性別	区分 自立	指示・見守り	一部介助	全介助	計
男	1	0	5	3	9
女	3	10	12	16	41
計	4	10	17	19	50

IV. 実施した行事等

行事名	月日	時間	内容
茶娘	5月23日	14:00～15:00	職員が茶娘の衣装を着て新茶を振る舞う
敬老会	9月15日 9月20日	14:00～15:00 11:30～13:30	ケーキバイキングを行いお祝いする 炊込みご飯やオードブルを食べお祝いする
秋祭り	11月17日	10:30～15:00	法人秋祭りに代わる催しとして、2階3階に分かれて、出店やゲームを開いた
クリスマスケーキ作り	12月21日	14:00～15:00	クリスマスケーキのデコレーションを楽しむ
節分	2月3日	14:00～15:00	鬼にボーロを投げ、おかしまきをする

【各ユニット別の行事・レクリエーション】

なずな	誕生レク・おやつ作り・焼き芋レク
すずしろ	誕生レク・おやつ作り・焼き芋レク
なでしこ	誕生レク・おやつ作り・焼き芋レク
ききょう	誕生レク・おやつ作り・母の日レク・焼き芋レク

V. 施設内学習会

種類	日時	内容	講師（発表者）
法人勉強会	5月 書面開催	感染（手洗い・手指消毒）	感染委員会
	7月 書面開催	感染（新型コロナウイルス感染症BCP机上訓練）	感染委員会
	7月 書面開催	身体拘束・虐待を考えよう	身体拘束防止委員会
	10月 書面開催	感染（ノロウイルスBCP感染予防、食中毒防止）	感染委員会

介護勉強会	11月 書面開催	介護事故研修	事故防止委員会
	12月 書面開催	感染（新型コロナウイルス感染症BCP机上訓練）	感染委員会
	2月 書面開催	身体拘束と福祉職員虐待の芽	身体拘束防止委員会
	3月 書面開催	事故発生の防止のための指針	事故防止委員会
特養勉強会	10月 書面開催	認知症（新人研修内容の学び）	相談員
	2月 書面開催	ターミナルケア （人生の最終段階における医療・ケアの決定の プロセスに関するガイドラインに基づいて）	相談員
学習発表会	9月 17:45～18:45 施設内開催	2階すずしろ：十人十色の生活 2階なずな：PDCAサイクルを使った介護 3階なでしこ：入居者の生活を継続するために	介護職員 看護職員 相談員 管理栄養士 機能訓練指導員
	12月 施設内書面開催	3階ききょう：入居者の余暇活動 栄養：食事に関する技術向上に向けて 医務：3施設合同宅直体制に向けて 相談員：コロナ禍における支援の実施と課題 機能訓練指導員：3施設の関り	
	3月28日 17:45～18:45 3施設の代表ユニットと各専門職による 発表	南風なでしこ：入居者の生活を継続するために 第二南風かりん：レクリエーション 花菜風花水木：承認を受け取る 栄養：食事に関する技術向上に向けて 医務：3施設合同宅直体制に向けて 相談員：コロナ禍における支援の実施と課題 機能訓練指導員：3施設の関り	
職員勉強会	9月	酸素療法	看護職員
	12月	窒息時の対応	看護職員

VI. 実習・体験学習受け入れ

【介護福祉士単位実習】

学 校 名	人数	期 間
浜松修学舎高校	1名	7月11日～7月28日の13日間 感染対策のため第二南風にて実習
聖隷クリストファー大学	2名	8月22日～9月21日の23日間
	2名	2月7日～3月16日の23日間

【老年看護学実習】

学校名	人数	期 間
浜松市立看護専門学校	4名	7月11日～7月28日 8月31日～9月20日

新型コロナウイルス感染対策のため、施設見学と介護体験は中止とした。

VII. 苦情受付件数

0件

VIII. ヒヤリハット・事故報告

(事故)

1. 事故内訳

転倒・転落	179
薬剤	72
外傷	21
エスケープ	18
異食	33
誤飲	2
その他	17
合計	342

2. 所見

異常なし	247
創傷	6
打撲	5
内出血	5
骨折	2
その他	75
合計	342

3. 発生場所

居室	116
トイレ	18
リビング	178
廊下	10
浴室	7
その他	13
合計	342

5. 介護保険事業者事故報告（浜松市へ報告事例）

	事故内容	所見	状況	賠償保険
1	転倒	骨折	居室で転倒している	見舞金
2	転倒	脱臼	トイレで転倒している	なし
3	転倒	ひび	フロアで転倒している	見舞金
4	転倒	骨折	フロアで転倒している	なし
5	転倒	骨折	居室で転倒している	見舞金
6	転倒	骨折	フロアで転倒している	見舞金
7	内出血	打撲	入浴時内出血あり	なし
8	疼痛	骨折	介助時痛み強くあり	見舞金
9	転倒	骨折	居室で転倒している	見舞金

令和4年度特別養護老人ホーム第二南風事業報告

I.総括

令和4年度は「承認」スキルを運用し、専門職・ユニットリーダー・生活相談員から、ユニット職員個々のスキル、入居者個々のそのひとらしさを大切にするケアの向上のために実施した。承認を各目標に掲げたことで、認め合うことの重要性を認識でき、新たな課題の発見にもつながった1年となった。

第二南風課題共有会議を通して組織力アップを図ったが、感染対策等で思うように実施できない結果となった。しかし、リーダー会議の場が活発な意見交換の場所となり、小さな課題を解決し、次につなげていく力がついてきている。今後もリーダーの主体性をサポートしながら、組織力の向上に努めていく。

また、開設2年目から課題となっている施設内の湿気やカビについては、調査会社に依頼し原因が明確化され、外壁塗装の不備が原因とされた。現在補修工事を実施しており、外壁塗装は終了し、居室内のカビ発生個所の補修を実施している。補修工事後も、湿気の発生等に留意し対応する。

稼働率については、99.5%を目標としていたが、98.9%という結果になった。今年度は入院者が続き、次期入居者への支援の働きかけが遅くなったことが要因とされる。また、有給取得率は74.8%となった。前年度に比べ、取得日数が向上した。
以下の各部署の評価を報告する。

1.介護職員

【あやめ】

- ① 入居者についての課題は話し合うことは出来てもケアの変更までに繋げるのに時間がかかることが多かった。達成度 50%
- ② 学習発表会のテーマにもなっていたのでレクリエーションについて意識して取り組むことができた。コミュニケーションが難しい入居者に対し、どのようなニーズがあるかくみ取る難しさを感じた。達成度 70%
- ③ 自己目標は立てることができても、会議内で評価するということが難しく取り組めないことが多かった。達成度 20%

【さつき】

- ① 学習発表会のメイン題材としていた為、ユニット内での情報共有はできた。症状からケアの周知方法までユニット内での取り組みの役割分担、ケアを自分事として捉えてもらう働き方が必要だった。達成度 60%
- ② 承認は、普段の仕事の中で職員が「自分は見てもらえている」という感覚を持てることと捉えていたが、普段の業務の中では特別な場面である会議での活かし方が不明瞭なままだった。達成度 30%

- ③ 記録や口頭での申し送りでニーズの把握はできていたが感染対策もあり、叶えることができなかったニーズも多かった。達成度 50%

【つばき】

- ① 皮膚トラブルになり易い方の状態は気にかけられたが、入浴時のみの観察となり、全員の皮膚状態を確認できたかというとな難しかった。達成度 40%
- ② 会議内だけでなく、勤務で会った時に話をして検討できた。職員の移動が多かったが、話し合える雰囲気作りができた。達成度 60%
- ③ 環境整備は課題が残り、補充が怠っていたことが多かった。達成度 50%

【かりん】

- ① 自分が得意とする分野（ポジショニングの考案、レクリエーション等）それぞれが自分の持ち味を発揮して一年間取り組むことができた。達成度 90%
- ② 環境係を中心に季節に合わせたユニットの設え、掲示物を意識することができた。入居者を交えて設え作りをしていきたい。達成度 65%
- ③ 個別レクに意識して取り組めた1年だった。個々の希望に合わせたケアを継続していく事の重要さを感じた。達成度 70%

【かえで】

- ① 各職員がそれぞれの意見を持ち、会議やそれ以外でもその意見を言いあい、みとめあうことができた。しかし、色々な意見がまとまらずに行動に移すのが遅くなってしまった。達成度 60%
- ② 皮膚トラブルの変化に気づくことは出来ても、その情報を共有出来ていないことがあったが、栄養状態や皮膚の状態を見て大きな皮膚トラブルに繋がらないよう対応できた。達成度 60%
- ③ フロアの掃除は気にかけていたが居室の掃除や環境を整えるところまで意識できなかった。居室での面会が再開されているので、各職員が意識を高めていく。達成度 40%

【ぼたん】

- ① 会議内で一人一発言としていたが気づきはあっても発言にまでつなぐことが難しかった。達成度 30%
- ② 誕生日レクの充実を図り、合同誕生日会を行うなど意識を高めて行うことができた。達成度 70%
- ③ ADL 評価表を用いてアセスメント力を高めることができた。しかし ADL 評価表をどのようにケアに結び付けるかというところまで発展しなかった。達成度 60%

2.看護職員

- ① 回診以外でもメールのやり取りで医師と連携をとり体調不良の対応ができた。コロナワクチン等接種を円滑に行うことができた。皮膚処置の対応は排便チェック表に組み込んで評価も継続できた。達成率 70%

- ② 通年勤務の正社員は1人1回ずつ外部研修に参加できた。達成度 100%
- ③ 2階、3階の各職員で声を掛け合い、体調不良の情報を脅威祐するよう努めた。
回診前カンファレンスで情報共有をおこなった。
体調不良時への連絡は相談員と連携し行った。
宅直が3施設で一人となった事で、看護リーダー会議で宅直対応の事例の報告、検討をおこなった。達成率 70%

3. 管理栄養士

- ① 食事観察をし、他職種と話すことで早期に対応できた。達成度 70%
- ② 大人数で集まることの難しい期間が多く給食会議の開催が少なかった。施設と委託業者にそれぞれの意見を聞き、施設と委託業者のそれぞれの意見を聞き、施設栄養士で話し合い調整できた。達成度 70%
- ③ 会議内で意見を言うことができた。達成度 80%

4. 機能訓練指導員

- ① カンファレンスでは専門職として予測できること、必要なことをその都度伝え、多職種と協力することができた。達成度 70%
- ② 入居者一人一人との関りを大切にし、個別・集団機能訓練ともに実施できた。コミュニケーションがとりづらい入居者の情報を細かく他職種の職員から得るようにし、よりよいサービスを提供していきたい。達成度 80%
- ③ 他施設機能訓練と毎朝ミーティングをし、ポジショニング方法などを相談しあえることで技術の向上をはかることができた。皮膚トラブルはゼロには出来ていないが、引き続き努力していきたい。達成度 70%

5. 歯科衛生士

- ① カンファレンスやミールラウンド等で嚥下機能評価定期的に行うことで利用者に合った食事ケアができるようになった。達成率 100%
- ② 施設配置固定や連絡事項ファイルを使用することで、連携が取れ問題解決が速やかになった。達成率 80%
利用者の口腔内のトラブルが減少、突発的な歯科受診が少なくなった。達成率 100%
誤嚥性肺炎で入院する入居者は毎年全体の1%以下を維持できている。達成率 95%

6. 生活相談員

- ① 事例検討会が途中からできず、援助技術の向上について努めることが不十分であった。達成度 50%
- ② 課題共有会議は感染対策もあり継続が難しかったが、職場環境改善のための取り組みを意識することができた。しかし継続ができず課題が残った。達成度 60%
- ③ 入居者の日々の様子について、こまめに連絡し電話連絡以外にもメールを使用する事

で、情報提供・信頼関係の構築に繋げることができた。達成度 80%

7. 介護支援専門員

- ① 入居後 1 週間以内のカンファレンスが定着し、そこで生活歴や家族構成なども伝えていくことで入居者のことを理解する事に繋がった。今後も継続したい。達成度 70%
- ② 3 ヶ月に 1 回のサービス担当者会議が定着し、ケアの見直し・確認を行うことでプランに反映することができた。24 時間シートへの反映が怠るユニットもあり、更新頻度など今後課題である。達成度 70%
- ③ 感染対策が続き、ご家族の思いは前もって聞き取ることが難しかったが、入居者との日々の関わりの中から思いを意向として取り上げ、プランに反映することができた。達成度 60%

Ⅱ. 入居者の状況

1. 入退去状況

入退 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	2	2	2	1	1	0	0	4	0	1	0	2	15
退去	3	1	1	2	0	0	2	2	1	0	0	3	15

2. 退去理由

性別 理由	在宅復帰	要支援	介護保険施設	病院	死亡（病院）	死亡（第二南風）	計
男	0	0	0	1	0	5	6
女	0	0	0	1	0	8	9
計	0	0	0	2	0	13	15

3. 今年度入居者の入居前の状況

性別 区分	家庭	介護保険施設	福祉施設等	医療機関	計
男	2	0	0	0	2
女	6	2	2	3	13
計	8	2	2	3	15

4. 年齢別（令和3年3月31日現在）

性別 年齢	～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳
男	0	0	1	3	2	3
女	0	1	1	5	3	18
計	0	1	2	8	5	21
性別 年齢	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	計	平均年齢	
男	3	1	0	13	85.8歳	
女	13	4	2	47	88.7歳	
計	16	5	2	60	87.11歳	

5. 要介護度別入居者数一覧及び要介護度

【実入居者数】 ※各月末実数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
要介護2	3	3	4	4	4	4	4	3	3	3	3	4	42
要介護3	16	18	20	21	20	20	19	18	17	18	18	17	222
要介護4	21	19	19	19	21	21	21	24	23	23	24	24	259
要介護5	17	17	15	13	13	13	13	13	14	14	13	12	167
合計	59	59	60	59	60	60	59	60	59	60	60	59	714
平均介護度	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7

【延入居者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62
要介護2	90	93	118	124	124	120	124	90	93	93	84	124
要介護3	480	525	600	641	620	600	592	540	527	558	504	527
要介護4	631	612	548	589	636	630	651	675	742	694	672	742
要介護5	515	527	455	413	403	390	410	408	434	434	364	380
合計	1776	1819	1781	1829	1845	1800	1839	1773	1858	1841	1680	1835
稼働率（%）	98.7	97.8	98.9	98.3	99.2	100	98.9	98.5	99.9	99	100	98.7

6. 入院状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	1	0	2	1	1	2	1	0	1	1	0

入院期間	10日未満	10～20日	21日～30日	30日以上	計
人数	2	5	3	1	11

※入院日及び退院日を含む

7. 外泊(延人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅲ. 入居者の生活状況（令和4年3月31日現在）

1. 食事状況

性別	区分	自立 (見守り含)	一部介助	全介助	経管栄養	計
男		6	5	1	1	13
女		14	19	12	2	47
計		20	24	13	3	60

2. 入浴状況

性別	区分	見守り/声かけ	一部介助	全介助	計	一般浴	中間浴	機械浴(寝浴)	計
男		0	10	3	13	2	9	2	13
女		0	28	19	47	10	30	7	47
計		0	38	22	60	12	39	9	60

3. 排泄状況

性別	区分	自立(排泄前後の確認含)	誘導介助	オムツ介助	計	夜のみオムツ	膀胱ろう	バルーンカテーテル
男		0	10	3	13	1	0	1
女		4	33	10	47	5	0	0
計		4	42	13	60	6	0	1

4. 移動状況

性別	区分	独歩(不安定含)	杖	車椅子	車椅子(介助)	シルバーカー	歩行器	計
男		2	0	6	5	0	0	13
女		5	1	2	31	7	1	47
計		7	1	8	36	7	1	60

5. 更衣状況

性別	区分	自立	指示・見守り	一部介助	全介助	計
男		2	3	5	3	13
女		5	5	18	19	47
計		7	8	23	22	60

IV. 実施した行事等

行事名	月日	時間	内容
花見ドライブ	3月31日、 4月4日	10：00～16:00	佐鳴湖公園へ花見に行く。
茶娘	5月17日	14:10～14：45	職員が茶娘になり、クイズや歌を一緒に行い、新茶を楽しむ。
和菓子の日	6月18日	14:30～15:00	2階和菓子を数種類用意し、入居者が選び提供する。
父の日	6月19日	14:30～15:00	フォトフレームで写真撮影をし、和菓子を提供。
花火大会	7月15日28 日 8月8日 8月16日	19：00～20：00	各階に分かれ、少人数のグループで手持ち花火や吹上花火をに楽しむ。
スイカ割り	8月29日	14：00～15：00	各ユニットでスイカ割りを行う。
敬老会	9月28日	14：00～15：00	職員がズンドコ節を披露し、一緒にお祝い。おやつバイキングを行う
さつまいも茶巾絞り	10月13日	14:00～15:00	各ユニットでさつまいも茶巾絞りを作り食べる。
秋祭り	11月24日	12:00～16:00	お好み焼き、おやつにフルーツポンチ提供。職員のズンドコ節披露。
クリスマス会	12月24日	14：00～15：00	各ユニットで職員がサンタクロースに扮してプレゼントを渡す。クリスマスケーキを食べる。
忘年会	12月29日	11:30～15:30	昼食に鍋、おでんを提供。おやつにバイキングを行う。
初詣レク	1月13日19日	14：00～15：30	感染対策の為実施できず。
節分	2月3日	14：00～15：00	各階に分かれ、職員が鬼に扮し豆まきを実施。

【各ユニット別の行事・レクリエーション】

つばき	誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り
あやめ	誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り
さつき	誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り
ばたん	誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り
かりん	誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り
かえで	誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り

V. 施設内学習会

種類	日時	内容		講師（発表者）
法人勉強会	5月 書面開催	感染（手洗い、手指消毒研修）		感染委員会
	7月 書面開催	感染（新型コロナウイルス感染症BCP机上訓練）		感染委員会
	7月 書面開催	身体拘束・虐待を考えてみよう		身体拘束虐待委員会
	10月 書面開催	感染（ノロウイルスBCP感染予防食中毒防止）		感染委員会
	11月 書面開催	介護事故研修		事故防止委員会
	12月 書面開催	感染（新型コロナウイルス感染症BCP机上訓練）		感染委員会
	2月 書面開催	虐待身体拘束と福祉施設職員、虐待の芽		身体拘束虐待委員会
	3月 書面開催	事故発生の防止の為の指針		事故防止委員会
特養勉強会	10月 書面開催	ターミナルケア（人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン）		特養相談員
	2月 書面開催	認知症（新人研修内容を学び、対応の振り返り）		特養相談員
	1回目 8月、9月 書面開催	南風	すずしろ：十人十色の生活	介護職員 看護職員
			なずな：PDCAサイクルを使った介護	
			ききょう：入居者の余暇活動	
			なでしこ：入居者の生活を継続するために	
		花菜風	花菖蒲：1%の認知症	
			花菱草：なぜそのケアを行っているのか根拠を説明できるスキルを身につける	
			花水木：「承認」を受け取る	
			かえで：ターミナルケア	

学習発表会	2回目 1月 集合研修	第二	かりん：レクリエーション	相談員 機能訓練士 栄養士
			ぼたん：ADL評価表に基づいた介護	
			さつき：皮膚トラブルの改善に向けて	
			あやめ：レクリエーション	
	3回目 3月28日 集合研修	専門職	つばき：高次脳機能障害	
			栄養：食事に関する技術向上に向けて	
			機能訓練：3施設の関り	
			医務：3施設合同宅直体制に向けて	
職員勉強会	5月・10月		相談員：コロナ禍における支援の実施と課題	ユニットリー ダー
			ケアの根拠（介護家庭、記録）	

VI. 実習・体験学習受け入れ

【介護職場体験】

浜松特別支援学校	1名	6月9日～6月29日
	1名	10月5日～10月26日
浜松市立看護専門学校	4名	7月11日～7月29日
	4名	8月31日～9月20日
介護・福祉のしごと体験研修	1名	8月24日
静岡県立短期大学部助教等見学	2名	12月13日

【施設見学・福祉のセミナー等】

新型コロナウイルス感染対策のため、施設内での見学会等は開催されなかった。

VII. 苦情受付件数

0件

VIII. ヒヤリハット・事故報告

1. 事故内訳

転倒・転落	34
薬剤	30
外傷	31
エスケープ	0
異食	1
誤飲	0
その他	47
合計	143

2. 所見

異常なし	56
創傷	12
打撲	4
内出血	8
骨折	4
その他	59
合計	143

3. 発生場所

居室	76
トイレ	5
リビング	34
廊下	16
浴室	2
その他	10
合計	143

(1) 分類

5. 介護保険事業者事故報告（浜松市へ報告事例）

	事故内容	所見	状況	賠償保険
1	転倒	右大腿部転子部骨折	ベッド下で倒れている。入院し手術。	家族希望せず

2	転倒	恥骨骨折	ベッド下に座っていた。痛みあり、入院、手術	見舞金
3	義歯紛失	異常なし	義歯が見つからなかった。義歯作成	賠償金
4	義歯紛失	異常なし	義歯が見つからなかった。義歯作成	賠償金
5	転倒	左大腿部骨折	居室で転倒。痛みあり受診。入院、手術。	見舞金
6	転倒	右大腿部転子部骨折	夜間、フロアに出てきて転倒。入院、手術	見舞金
7	転倒	右座骨骨折	居室でふらつき転倒。受診。	見舞金

令和4年度 特別養護老人ホーム花菜風 事業報告

I. 総括

ここ数年は花菜風の課題として中堅職員の育成が上がっていたが、令和4年度は4年ぶりに新卒職員の配属があり、職員指導の取り組みを施設全体で実施してきた。配属ユニットだけでなく施設全体で新人指導に取り組む意識を持つとともに、中堅職員主体の施設内勉強会開催やカンファレンス実施に力を入れることができ、横の繋がりができつつある。日常の介護の場面や職員同士の関わりの中にも承認スキルを活用することで、円滑なコミュニケーションや相談しやすい環境作りにも取り組むことができ、多職種連携や専門職としての意識向上にも繋がった。仕組み作りができつつあるため、次年度は運用方法確立に向けて取り組み、組織力向上へと繋げていきたい。

年間稼働率の目標を99.5%と掲げたが、入退去発生時の対応の遅れもあり98.8%と目標を下回った。また、有給休暇取得率は目標を超え、76.7%となったが、正規職員の取得率は低く、課題が残る結果となった。

以下、各部署の評価を報告する。

1. 介護職員

【花水木】

- ① ADL評価のアセスメント表をユニット独自で作成・実施することにより可視化され、状態変化の際の迅速なカンファレンスの実施に繋がった。年間13回実施できたが、職員のカンファレンスに関するスキル向上が課題である。
- ② 感謝の言葉カードによりコミュニケーションをとる時間が増えた。入居者の希望を聞き出す事にも繋がりレクリエーションに活かす事ができ、職員のモチベーションアップにも繋がった。身に付けた承認スキルを継続していけるような取り組みを続けていきたい。達成度70%

【花菱草】

- ① ユニット交流会としての時間を設定することが難しかったが、入居者の誕生日レクとしておやつ作りなどを行う時間を多くとることができた。達成度70%
- ② 当初の意図とは違い連絡ノートのような使用方法になってしまった。しかし、ケアで気になる事がある場合はその日の職員で直接話し合っ解決する機会が増え、自ら意見を発信して問題解決に繋げる機会が増えた。達成度60%
- ③ 事例検討を行う時間をユニット会議内で作ることができ、1つ1つの事例を突き詰め、職員間での差をなくし根拠を持ってケアを行うことができた。達成度80%

【花菖蒲】

- ① ありがとうカード導入により職員それぞれが毎月1文記入し、ユニット内でも承認の意識ができつつある。管理がうまくできず、運用方法を検討し来年度の実施に繋げていきたい。達成度 70%
- ② 居室担当以外も会議で発言して意見を発信するため、ユニット会議前に検討事項のアンケートをとることを続けた。会議以外でもユニット職員同士で相談する機会が増え、チームワークについての意識の向上に繋がった。達成度 60%

2. 看護職員

- ① 日々の業務の中で介護職員とお互いに声を掛け合い情報共有に努めた結果、意見を出し合うことが自然にできるようになっているが、発信しやすい体制作りに課題が残る。研修参加の機会は作ることができなかった。達成率 50%
- ② 宅直体制についてはまだ課題もあるが、概ね順調にすすめることができている。日勤業務でも施設間での応援体制・交流が増やせるような取り組みが必要である。達成率 30%
- ③ 有休 70%消化が達成できた職員は1名にとどまった。また、時間内に業務を終了できないことが増えており、業務の見直しも今後の課題である。達成率 30%

3. 管理栄養士

- ① 食事観察をし、他職種と話すことで早期に対応できた。達成度 70%
- ② 大人数で集まることの難しい期間が多く給食会議の開催が少なかった。施設と委託業者にそれぞれの意見を聞き、施設と委託業者のそれぞれの意見を聞き、施設栄養士で話し合い調整できた。達成度 70%
- ③ 会議内で意見を言うことができた。達成度 80%

4. 歯科衛生士

- ① カンファレンスやミールラウンド等で嚥下機能評価定期的に行うことで利用者に合った食事ケアができるようになった。達成率 100%
 - ② 施設配置固定や連絡事項ファイルを使用することで、連携が取れ問題解決が速やかになった。達成率 80%
- 利用者の口腔内のトラブルが減少、突発的な歯科受診が少なくなった。達成率 100%
- 誤嚥性肺炎で入院する入居者は毎年全体の1%以下を維持できている。達成率 95%

5. 機能訓練指導員

- ① ADL 評価表で介護職員と協力して評価を行い、今、すべきことを見つけ出し機能訓練に取り入れることで日常生活の充実化を図った。達成度 70%
- ② サービス担当者会議を通しリハビリ内容の相談や提案を行い、入居者本人への確認も

実施し、訓練に対する積極性を引き出すことに繋げる事ができた。達成度 100%

- ③ コロナの感染対応にて会議が実施できない月もあったが、新たに4人体制となり、会議や朝ミーティングなどを実施することで多角的な意見を聞く環境を整えることができた。達成度 83%

6. 生活相談員

- ① 制度に関する情報収集や相談援助に対する学びの機会も積極的に作ることができず、知識・技術の向上が不十分であった。相談員会議での積極的な事例検討ができなかった。達成度 30%
- ② 職員への声掛けを意識的に行い様々な意見を聞くことができたが、個々の意見を繋げて解決に導くことが難しかった。ユニットリーダーとは課題を共有し協力を求め、一緒に取り組むことができた。達成度 60%
- ③ 施設の窓口として家族と密に連絡を取る事ができた。普段の生活が見えない分、家族と現場を繋ぐことができるような関わり方に課題が残る。達成度 65%

7. 介護支援専門員

- ① 日常的に入居者の声を聞く機会を作った。家族から情報を聞き出すことにも力を入れ、得た情報を現場職員と共有できるように努めた。達成度 60%
- ② サービス担当者会議だけでなくカンファレンス参加の機会を増やし、多職種との情報共有や意見交換の機会を多く設けることができた。達成度 70%

Ⅱ. 入居者の状況

1. 入退去状況

入退 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	1	1	1	0	2	1	0	1	0	0	2	1	10
退去	0	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	9

2. 退去理由

性別 理由	在宅復帰	要支援	介護保険施設	病院	死亡（病院）	死亡（南風）	計
男	0	0	0	0	0	2	2
女	0	0	0	1	0	6	7
計	0	0	0	1	0	8	9

3. 今年度入居者の入居前の状況

性別 区分	家庭	介護保険施設	福祉施設等	医療機関	計
男	1	1	0	2	4
女	2	2	0	2	6
計	2	3	0	4	10

4. 年齢別（令和5年3月31日現在）

性別 年齢	～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳
男	0	0	1	2	0	2
女	0	0	1	2	2	5
計	0	0	2	4	2	7
性別 年齢	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	計	平均年齢	
男	1	0	0	7	84.3	
女	7	5	0	22	88.3	
計	8	6	0	29	87.3	

5. 要介護度別入居者数一覧及び要介護度

【実入居者数】 ※各月末実数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要介護2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
要介護3	8	8	8	8	10	11	11	11	11	11	10	10	117
要介護4	14	13	13	12	12	10	10	11	11	11	11	10	138
要介護5	5	7	7	7	7	8	7	7	6	6	8	9	84
合計	29	30	30	29	30	30	29	30	29	29	30	30	355
平均介護度	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.9	3.8

【延入居者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
要介護2	30	31	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	240	226	213	248	266	318	341	330	341	341	235	297
要介護4	420	403	378	372	372	300	310	308	341	341	308	310
要介護5	150	199	210	217	191	213	217	184	186	179	223	254
合計	870	890	861	898	860	861	899	852	899	892	794	892
稼働率（%）	100	98.9	98.9	99.8	95.6	98.9	100	97.9	100	99.2	97.7	99.2

6. 入院状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2

入院期間	10日未満	10～20日	21日～30日	30日以上	計
人数	1	2	0	0	3

※入院日及び退院日を含む

7. 外泊(延人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅲ. 入居者の生活状況（令和5年3月31日現在）

1. 食事状況

性別	区分 自立 (見守り含)	一部介助	全介助	経管栄養	計
男	1	4	1	1	7
女	10	9	3	0	22
計	11	13	4	1	29

2. 入浴状況

性別	区分 見守り/声かけ	一部介助	全介助	計	一般浴	中間浴	機械浴(寝浴)	計
男	0	4	3	7	0	5	2	7
女	1	10	11	22	1	15	6	22
計	1	14	14	29	1	20	8	29

3. 排泄状況

性別	区分 自立(排泄前後の確認含)	誘導介助	オムツ介助	計	夜のみオムツ	膀胱ろう	バルーン カテーテ
男	0	6	1	7	2	0	0
女	1	16	5	12	2	0	2
計	1	22	6	29	4	0	2

4. 移動状況

性別	区分 独歩(不安定含)	杖	車椅子	車椅子(介助)	シルバーカー	歩行器	計
男	1	0	1	5	0	0	7
女	4	0	3	14	1	0	22
計	5	0	4	19	1	0	29

5. 更衣状況

性別	区分 自立	指示・見守り	一部介助	全介助	計
男	0	0	4	3	7
女	0	1	15	6	22
計	0	1	19	9	29

IV. 実施した行事等

行事名	月日	時間	内容
母の日	5月17日	昼食	ホットプレートで餃子・焼きそばを焼き、みんなで食べる。メッセージカードを渡す
父の日	6月19日	14:00～14:30	男性入居者にメッセージを渡す。
運動会	6月28日	14:00～15:00	ハン食い競争、玉入れを楽しむ。ハン食い競争でとったパンをおやつに食べる
七夕	7月7日	14:00～14:30	短冊に願い事を書く。笹を飾り付けて一緒に写真を撮る
納涼祭	8月29日	11:00～15:00	ユニットごとにお好み焼きやフランクフルトやじゃがバターなどの祭りらしい昼食を食べる。射的やすいか割りを楽しむ
敬老会	9月21日	14:00～15:00	ユニットごとで長寿の紹介をする。メッセージカードを渡しお祝いをする
秋祭り	11月7日	11:00～15:00	昼食に寿司や天ぷらを食べ、二人羽織や神輿を楽しむ。おやつにさつま芋茶巾を作り食べる。
クリスマス	12月26日	14:00～15:00	クリスマスケーキのデコレーションを楽しむ
忘年会	12月15日	昼食	入居者からリクエストのあったケンタッキーを昼食に食べる
新年会	1月23日	14:00～16:00	各ユニットで絵馬を書き、獅子舞を楽しむ、おやつに中華まん（リクエスト）を食べる
節分	2月3日	14:00～15:00	職員が鬼に扮し、各ユニットごとに豆まきとお菓子まきを実施
ひな祭り	3月3日	14:00～15:00	桜餅を作って食べる
花見	3月28日～	14:00～15:00	近所の神社へドライブに出かけ、車から降りて桜を見る。

【各ユニット別の行事・レクリエーション】

花水木	誕生レク（ケーキ作り、お寿司、等）・食事作り・季節のおやつ作り
花菱草	誕生レク（プレゼントや色紙を渡す、ケーキを食べる、等）・おやつ作り
花菖蒲	誕生レク（プレゼントや色紙を渡す、お菓子作り等）・おやつ作り・クラフト

V. 施設内学習会

種類	日時	内容	講師（発表者）
----	----	----	---------

法人勉強会	5月 書面開催	感染（手洗い・手指消毒）		感染委員会
	7月 書面開催	感染（新型コロナウイルス感染症BCP机上訓練）		感染委員会
	7月 書面開催	身体拘束・虐待を考えよう		身体拘束虐待委員会
	10月 書面開催	感染（ノロウイルスBCP感染予防、食中毒防止）		感染委員会
	11月 書面開催	介護事故研修		事故防止委員会
	12月 書面開催	感染（新型コロナウイルス感染症BCP机上訓練）		感染委員会
	2月 書面開催	身体拘束と福祉職員虐待の芽		身体拘束虐待委員会
	3月 書面開催	事故発生の防止のための指針		事故防止委員会
特養勉強会	10月 書面開催	ターミナルケア （人生の最終段階における医療・ケアの決定のプロセスに関するガイドラインに基づいて）		特養相談員
	2月 書面開催	認知症（新人研修内容の学び）		特養相談員
学習発表会	1回目 8月、9月 書面開催	南風	すずしろ：十人十色の生活	介護職員 看護職員 相談員 機能訓練士 栄養士
			なずな：PDCAサイクルを使った介護	
			ききょう：入居者の余暇活動	
			なでしこ：入居者の生活を継続するために	
		花菜風	花菖蒲：1%の認知症	
			花菱草：なぜそのケアを行っているのか根拠を説明できるスキルを身につける	
			花水木：「承認」を受け取る	
	2回目 1月 集合研修	第二	かえで：ターミナルケア	
			かりん：レクリエーション	
			ぼたん：ADL評価表に基づいた介護	
			さつき：皮膚トラブルの改善に向けて	
			あやめ：レクリエーション	
			つばき：高次脳機能障害	
			栄養：食事に関する技術向上に向けて	
			機能訓練：3施設の関り	

	果谷研修	研修内容	医務：3施設合同宅直体制に向けて 相談員：コロナ禍における支援の実施と課題
職員勉強会	5月	承認	介護職員
	7月	記録	介護職員
	9月	接遇	介護職員
	11月	認知症	介護職員
	1月	食事	介護職員
	3月	身体拘束	介護職員

VI. 花菜風運営推進会議

月日	参加者	内容
5月26日、7月28日 9月20日、11月17日 1月19日、3月16日 ※新型コロナウイルス 感染症拡大防止の為 11月17日と3月16日以外 書面開催	浜松市健康福祉部介護保険課 地域包括支援センター新津の職員 地域密着型介護老人福祉施設入所者 生活介護について知見を有する者 入居者、入居者家族、地域住民の代表者 事務局（施設長、生活相談員）	活動状況、入居者状況、入居申込者、状況従業者の状況等の報告・評価、令和3年度事業報告、令和5年度事業計画、意見・要望等。

VI. 実習・体験学習受け入れ

浜松市立看護専門学校	2名	7月11日～7月29日
	2名	8月31日～9月20日

VII. 苦情受付件数

0件

VIII. ヒヤリハット・事故報告

1. 事故内訳

転倒・転落	61
薬剤	11
外傷	20
エスケープ	6
異食	16
誤飲	1
その他	20
合計	135

2. 所見

異常なし	73
創傷	3
打撲	3
内出血	8
骨折	4
その他	44
合計	135

3. 発生場所

居室	56
トイレ	7
リビング	47
廊下	4
浴室	11

その他	10
合計	135

4. 介護保険事業者事故報告（浜松市へ報告事例）

	事故内容	所見	状況	賠償保険
1	転倒	腰椎圧迫骨折	夕食前フロアで転倒、受診	見舞い金
2	転倒	左上腕骨顆上骨折	転倒後時間が経過し可動域制限があり受診、骨折が判明	家族辞退
3	転倒	胸腰椎圧迫骨折	夕食後トイレ内で転倒、受診	見舞い金
4	転倒	左大腿骨骨折	足・腰の痛みが続いており受診したところ骨折が判明、入院し手術	見舞い金

令和4年度 デイサービスセンター南風事業報告

1、事業規模

①利用者人数

令和4年度

	延人員	換算人員	月平均	営業日数	1日当り人数
4月	780	774.25	774.25	26	30.0
5月	790	785.75	780.00	26	30.4
6月	802	798.50	786.17	26	30.8
7月	404	401.25	689.94	13	31.1
8月	681	676.75	687.30	27	25.2
9月	718	713.75	691.71	26	27.6
10月	740	729.75	697.14	27	27.4
11月	744	735.00	701.88	26	28.6
12月	437	423.50	670.94	22	19.9
1月	615	609.00	664.75	24	25.6
2月	646	642.00	662.68	24	26.9
3月	687	683.25	664.40	27	25.4
合計	8,044	7,972.75		294	27.1

※換算人員：1日の利用時間が7時間以上の場合は1人と計上し、5時間以上～7時間未満の場合は0.75人、2時間以上～5時間未満の場合は0.5人と計上します。

・新規利用者数 48人

終了者数 37人(1ヶ月を超える利用中止者含む)

・コロナウイルス感染症にともなうデイサービスの休業が、7月と12月にありました。

②中重度ケア体制加算(45単位/日)について

※要介護の利用者中で要介護3以上の利用者の割合が3割を超えている場合に加算

・1年間(4月～2月の11ヶ月)の期間における要介護3以上の割合が、29.1%でした。

令和5年度は、算定日の属する月の前3月間における利用者要介護3以上の割合が30%を超え算定要件を満たす状態になったら加算の算定をおこなっていきます。

2、日常活動の取り組み

デイサービスセンター南風は、「少しでも長く自宅での生活が継続できるようになる」ことをコンセプトとして、ご家族が自宅での介護を断念した上位3つの項目(BPSDの憎悪・トイレに行けなくなった・食べられなくなった)に対応した機能訓練を中心にプログラムを提供しています。

<認知症リハビリ～認知機能の機能訓練～>

・音楽療法……(10～20人の参加)

認知症の予防・進行防止・BPSD(認知症の周辺症状)の緩和を目的に実施

週4日(月・火・金・土)10:30～11:30

自己紹介から始まり、早口言葉、ハンドベルを使用した合奏、全員での歌唱という順で行っています。若干のストレスをかけつつも「楽しかった」で終わるよう心掛けて取り組んでいます。

金曜日は、理事長バンドに加わっていただいています。

・回想法……(10～13人の参加)

認知症の予防・進行防止・BPSD(認知症の周辺症状)の緩和を目的に実施

週2日(水・金)13:30～14:50に実施

水曜日と金曜日はそれぞれを違うテーマ設定にし、1ヶ月を1クールとして、第1週は児童期、第2週は青年期、第3週は壮年期、第4週は現在という形を原則として行っています。自己紹介から始まり、その後テーマに沿った思い出を語り合ってもらっています。

・芸術療法・・・(2～5人の参加)

認知症の予防・進行防止・BPSD(認知症の周辺症状)の緩和を目的に実施

週2日(火・土)13:30～14:50に実施

芸術療法は「私にできるかしら」と尻込みをしてしまう利用者が多く、参加者数が伸び悩んでいます。来年度は、曜日ごとのメニュー内容ではなく、利用者個々のペースに合わせたメニューで取り組んでいただけるようにしていきたいです。

・園芸療法・・・(1～2人の参加)

認知症の予防・進行防止・BPSD(認知症の周辺症状)の緩和を目的に実施

週4日前後10:00～11:30に実施(作業の必要がない日、日曜日と雨天は中止)

主な参加者は1名、ほんの時々参加される方は2名程度となっています。外の作業のため時間が決まっている中で作業を行うことが難しくまた、気候や職員の出勤人数に左右されやすいことが課題です。中庭のプランター栽培も実施し、雨の日でも活動できる日は参加の声かけを行いました。

・作業療法(手芸・書道)・・・(10～16人の参加)

認知症の予防・進行防止・BPSD(認知症の周辺症状)の緩和を目的に実施

手芸 月・木曜日 13:30～14:50に実施

書道 水・木曜日 10:00～11:30に実施

・脳トレ・・・(6人を除きその外全員参加)

認知症の予防・進行防止を目的に実施

音楽・回想・芸術・園芸・作業療法等認知症リハに参加しない利用者を対象に実施

内容は学習療法、ナンプレやクロスワード・間違い探し等パズル、ぬり絵などを行っています。

・はたら倶楽部 月1回程度(夏場・冬場は中止)

登録者が減少しているため、またコロナウイルス感染症の影響で活動ができずにいました。

地域活動の一環にもなるため来年度は活動が再開できるようにしたいです。

・フラワーアレンジメント(15名前後が参加)

月1回第2火曜日10:00～11:30に実施

・生け花(8名前後が参加)

月1回第3木曜日10:00～11:30に実施

メニュー内容の評価を行い、来年度の準備をしていきます。また、はたら倶楽部・園芸療法の活動は、屋外での活動になるため、気候やご利用者の体調に左右されやすく、スタッフの人数確保においても難しい活動です。これらを踏まえた業務調整も必要となっています。

他に今後の課題として、スタッフの自己学習や経験を積み重ねていく必要があること、活動を提供するためにスタッフの事前準備の時間も考慮できるようにしていくことが挙げられます。

<機能訓練>

① 個別機能訓練

転倒防止のための下肢筋力トレーニングを中心にして実施しています。寝たきり等で下肢筋力トレーニングが出来ない利用者は関節可動域訓練で対応しています。

② 在宅生活継続訓練

在宅介護において家族の心が折れ特養入所を決断する生活障害トップ3が「トイレに行けなくなった」、

「食べられなくなった」、「BPSD(認知症の周辺症状)が悪化した」という3つの障害に対応して在宅生活継続訓練に嚥下機能訓練を実施しています。また第2デイからの移動という流れで新規ご利用になる方もいらっしゃるので、機能訓練の内容においてご家族の納得を得ることが重要で、そのため最低でも第2デイと訓練内容を同等にすることが求められていたことから訓練実施時間は、1時間10分となっています。

メニューを考案して1年以上経過します。今後は、効果の評価をしていき、機能訓練指導員を中心にメニューの見直ししていきます。

③ その他

地域支援事業として介護予防のための運動を中心にした住民主体によるデイサービス「楽心出」は、新型コロナ感染状況により活動に影響がでておりましたが、現在は活動再開しています。

毎週 火・木・日 10時～11時30分 / 14時～15時30分

3、デイ職員研修

施設内集団研修は、原則的にデイ会議(毎月第2金曜日)のときに実施しています。

月 日	時 間	研修テーマ	参加人数 (講師含)
4月8日	18:00～18:30	介護記録について	14名
5月13日	18:00～18:30	コロナウイルス標準予防策と手指消毒	13名
6月10日	18:00～18:30	事業継続計画 BCP(災害時)研修	12名
7月8日	17:30～18:00	コロナウイルス感染症 BCP 机上訓練	15名
8月10日	18:00～18:30	移乗用リフトについて	11名
10月14日	17:30～18:30	ノロウイルス感染症・食中毒防止	14名
11月11日	17:30～18:30	介護事故研修	11名
3月10日	17:30～18:30	高齢者虐待防止	13名

4、その他の取り組み

① 通信文「認知症のお話」

家族の認知症理解を深めることを目的に「認知症のお話」という形での通信文をシリーズで作成し、利用者家族に配布しています。

相談員・機能訓練指導員等が中心となり議論を重ね、全体の構成を次のように決定しました。

- 1、4大認知症の簡単な紹介
- 2、デイサービスでの認知症リハビリ紹介
- 3、認知症の初期の症状を紹介(早期発見をするために)
※いくつか事例を交えて紹介する予定
- 4、認知症が進行してしまう関わり
(いくつか事例を交えて紹介する予定)
- 5、認知症の方への対応方法(その1:話を聞くこと)
- 6、認知症の方への対応方法(その2:共感)
- 7、BPSD(認知症の周辺症状)への対応方法
(いくつか事例を交えて紹介する予定)

昨年度より取り組みを開始し、現在、第8部まで作成しました。今後も継続していきます。

② 令和4年度静岡県介護優良事業所、「サービスの質の向上」部門に選定して頂きました。

ご利用者・ご家族から選ばれるデイサービスになるためには「結果を出すデイサービス」になることが

求められています。令和3年度に変更したプログラムを基に日々変わっていく利用状況に対応していけるよう、スタッフ間で連携を図り、今後も活動と実施をしていきます。

5、利用定員 40名

6、営業日・営業時間 月曜日～土曜日（日曜日は休業） 9:30～16:35
※ デイ日課表 別紙1 職員勤務体制 別紙2

バイタル測定等			9:30
朝の挨拶			
下肢筋トレ		園芸療法 (はたら倶楽部)	10:00
認知症リハ (音楽・書道)	脳トレ等		10:30
		関節可動域訓練等	11:00
		脳トレ等	11:30
嚥下体操			12:00
昼食			12:30
口腔ケア			13:00
学習療法			13:30
認知症リハ (芸術・回想・手芸)	脳トレ等	下肢筋トレ	14:00
		関節可動域訓練等	14:30
在宅生活継続訓練 (立ち上がり・嚥下機能)			15:00
おやつ			15:30
在宅生活継続訓練 (排泄動作・デュアルタスクトレーニング・瞑想)			16:00
			16:30

※入浴は1週間ごとに男性から、あるいは女性からと順番が入れ替わります。

入浴優先としますので午前あるいは午後の活動に一部参加できないことがあります。

リハA	リハB	リハC	リハ1	リハ2	ノート	特浴	外介	入浴1	入浴2	入浴3	
バイタル測定・朝の挨拶											
認知症リハ (園芸等)	脳トレ準備	下肢筋	下肢筋	下肢筋	ノート整理等	特浴	外介	入浴	入浴	入浴	9:30
	脳トレ	認知症リハ (音楽・書道)	関節可動域訓 練等	関節可動域訓 練等							10:00
休憩	休憩	配膳	休憩	嚥下体操	配膳	休憩	配膳	休憩	配膳	休憩	10:30
		食事介助等		食事介助等	食事介助等		食事介助等		食事介助等		11:00
口腔ケア等	口腔ケア等	休憩	口腔ケア等	休憩	休憩	口腔ケア等	口腔ケア等	口腔ケア等	休憩	口腔ケア等	11:30
	学習療法		学習療法補					学習療法補			12:00
認知症リハ補 (芸術・回想・手 芸)	脳トレ	認知症リハ (芸術・回想・手 芸)	下肢筋	下肢筋	ノート整理等	特浴	外介	入浴	入浴	入浴	12:30
			関節可動域訓 練等	関節可動域訓 練等							13:00
ケース記録	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練補	記録等	記録等	おやつ	おやつ	外介	入浴	入浴	入浴	13:30
おやつ	おやつ	おやつ		記録等							14:00
在宅生活継続 訓練補	フリー	在宅生活継続 訓練補	在宅生活継続 訓練補	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	14:30
											15:00
在宅生活継続 訓練補	フリー	在宅生活継続 訓練補	在宅生活継続 訓練補	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	15:30
											16:00
在宅生活継続 訓練補	フリー	在宅生活継続 訓練補	在宅生活継続 訓練補	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	在宅生活継続 訓練	16:30
											16:30

令和4年度 第2 デイサービスセンター南風 事業報告

1. 事業規模と利用者数について

大規模型（Ⅰ） 目標とする目安 約900人/月 1日約35人

事業規模区分

	平均利用延人員数（※）
通常規模型	750 人以内
大規模型Ⅰ	750 人を超え 900 人以内
大規模型Ⅱ	900 人を超える

（※）平均利用延人員数の算定方法—実人数に下表の数字を乗じた数

サービス提供時間	要介護の場合の乗数	事業対象者・要支援の場合の乗数
2 時間以上 3 時間未満	0.5	0.5
3 時間以上 5 時間未満	0.5	
5 時間以上 7 時間未満	0.75	0.75
7 時間以上 9 時間未満	1	1

	延人員	換算人員	月平均	営業日数	1 日当り 人数
4 月	890	882	882	26	34.2
5 月	844	839.5	860.75	26	32.5
6 月	890	884	868.5	26	34.2
7 月	980	970.5	894	26	37.7
8 月	905	900.5	895.3	27	33.5
9 月	883	877.25	892.29	26	34
10 月	891	887	891.54	26	34.3
11 月	871	866.75	888.44	26	33.5
12 月	857	853	884.5	26	33
1 月	736	734.25	869.48	24	30.7
2 月	760	755.5	859.11	24	31.7
3 月	878	875	860.4	27	32.5
合計	10385	10325.25		310	33.5

2. サービスの質向上について

(1) ICT 化による業務改善

介護記録ソフト・タブレット端末を導入したことによる結果は、以下のとおりです。

- 1) カルテへの転記作業が不必要となり、業務負担が軽減したことで、利用者との関わりや、打ち合わせ等、重要な業務に時間を割り当てることができるようになった。
- 2) 音声入力機能を活用し、記録業務の負担軽減を試みたが、周囲の雑音が大きく使用することが難しい。また、職員が落ち着いた状態で文章を考え、読み上げないといけないので、機能訓練デイの現場では使用困難という結果となった。
- 3) 「入浴」「機能訓練」「食事」等のサービス実施の有無を、「紙」ではなく介護保険ソフトに直接入力できるため、転記も不必要となり、請求業務の負担が軽減した。
- 4) 帳票類が減り、ペーパーレスも進み、カルテがデータ管理できるようになり、スマート化した。また、他事業所（特に居宅介護支援事業所）との情報共有が安易となり、業務削減にも効果があった。

(2) ケア検討会の実施

一つひとつのケースを熟知することで、個別ケアの質の向上、チームケアに対する意識、第 2 デイサービスセンター全体のチーム力の向上を目的としたケア検討会は以下の通り実施しました。

- 1) 実施回数はコロナクラスター感染対応のため 7 月 8 月を中止し、2 ヶ月予定をずらし、1 年で 12 ケースを実施済。
- 2) 書面や担当ケアマネジャー、家族等へのアセスメントを実施し、本人の状態のみならず、家族やケアマネジャーの想いを知ることができ、ケースの全貌を把握することができた。それは、ケアを考える力、家族やケアマネジャーとの信頼関係を向上することができた。また、様々な働き方をしている職員同士で形成されるチーム内で、お互いを補い合う形で、検討会を実施し、チームワークの向上にもつながっていると思われる。

(3) 仲間づくりの支援

訓練やトレーニングの合間の余暇時間を充実することで、仲間づくりの支援を実施しました。

- 1) 介護職員が利用者一人ひとりの趣向やリクエストに応えるような形で、創意工夫し物品等を制作。利用者同士でゲームをしたり、楽しみながらコミュニケーション機会を作り出すことができた。

(4) 勉強会の実施

「接遇」「拘束」「虐待」など多方面より学習。デイ会議にて、以下の通り実施しました。

- 4月 研修未実施
- 5月 スピーチロックについて
- 6月 接遇とコミュニケーションについて
大規模災害時の初期行動について
- 7月 新型コロナウイルス感染症対応について（BCP机上訓練実施）
- 8月 研修未実施
- 9月 拘束と虐待について
- 10月 接遇とコミュニケーションについて
ノロウイルスの対応について
- 11月 高齢者福祉研修会発表
現場職員のための薬の基礎知識
- 12月 共感を得る「ことば」講座
- 1月 認知症の人とのコミュニケーションとレク作りのポイント講座
- 2月 ガウンテクニックについて
介護事業所のためのチームワーク向上研修
- 3月 アンガーマネジメントについて

(5) 職員教育制度（新人研修）

特別養護老人ホームの新人研修プログラムを参考に、デイサービスにて適したマニュアル制作のための検討を始め、担当職員が第1デイと協働でマニュアル作りを進行中。来年度末完成予定。

(6) 外部研修への参加

適切な研修を選定し、年1回/人を目標として、外部研修（WEB研修含む）に参加する機会を作り、以下のように実施しました。（7割以上実施済）

- ・7/7 加藤宏美・鈴木ちひろ「浜リハセミナー健康関連QOLを評価してみよう」
- ・7/26 佐々木めぐみ 県老施協 「接遇マナー研修」※コロナ対応のためキャンセル
- ・9/6 佐々木めぐみ「令和4年度現場職員のための薬の基礎知識（基礎編）」
- ・9/10 松田和久「営業と運営について」
- ・9/17 松田和久 福祉介護施設の管理者等を対象とした感染対策講座
- ・10/7 佐々悦子「共感を得る言葉講座」
- ・10/20 小野智香子「褥瘡・皮膚ケア講座」
- ・10/24 大澤雅美「ハラスメント対策研修」

- ・ 10 月 中村正志 「第 11 回県高齢者福祉研究大会 研究発表」
- ・ 11/9 松田和久 「福祉・介護施設の管理者等を対象とした感染症対策講座」
- ・ 11/16 松田和久 「令和 4 年度社会福祉施設等職員防災研修会」
- ・ 11/18 小楠絵美 「介護事業所のためのチームワーク向上研修」
- ・ 11/22 増井静子 「レク作りのポイント講座」 県老施協
- ・ 12/5 松田和久 「ケアマネジメント業務 AI 導入支援セミナー」
- ・ 1/10 木下美代子 「施設看護師に求められる役割とは」
- ・ 1/13 大澤雅美 「カスタマーハラスメント対策研修会」
- ・ 1/17 加藤宏美 「虐待防止への取組について」
- ・ 1/18 牧野真弓 「がってん流！人と動かす伝え方の極意」
- ・ 1/30 袴田晃世 「より良い高齢者ケアを考えるセミナー」
- ・ 2/14 鈴木ちひろ 「アンガーマネジメントを学ぶ講座」
- ・ 2/22 鈴木スーサン 「外国人介護職員交流会」
- ・ 3/8 松田和久 「2024 年度介護報酬改定経営戦略セミナー」

3. 地域連携について

(1) 居宅介護支援事業所への訪問

地域のケアマネジャーと相談員との顔の見える関係づくりをするために、毎月の実績報告を実施しました。また、南区 LOVE 等の懇親会にも参加し、徐々に地域のケアマネジャーとの関係が構築しつつあると感じています。

(2) 地域福祉活動への参加

新型コロナウイルス感染症対策として、縮小されていた倉松町のシルバークラブやサロン活動の再活動支援を実施しました。秋に焼き芋大会を試験的に実施し、好評だったため、令和 5 年度より月 1 回シルバークラブとサロンを合同開催することとなり、年 4 回アウトリーチ活動として、認知症予防や機能訓練等をテーマ出張講師を実施することとなりました。

その他、地域活動は以下の通りです。

- ・ 定期 松田和久 県老施協 地域ケア委員会 委員として開催時参加
- ・ 8/26 松田和久 認知症キャラバンメイト 白脇協働センターにて講師として活動
- ・ 定期 松田和久 在宅症例多職種オンラインカンファレンス お薬メイトへの参加
- ・ 定期 松田和久・小楠絵美 定期的にみなみ区 Love の参加
- ・ 2/26 松田和久 一般社団法人くすりメイト主催 みんなで選ぶ施設アワードに参加
- ・ 3/11 松田和久 聖隷社会福祉学会シンポジウム 2023 シンポジストとして参加

(3) ケア検討会への参加依頼

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、実施回数は少なく、経験不十分として、外部ケアマネジャーと連携することができず、来年度の目標とします。

4. 事故・ヒヤリハット・苦情について

【苦情①】

日 時：令和4年5月3日

申出人：利用者

内 容：膝を痛がる利用者に対し「そんなに痛いの?」と言い残し何も対応せずにその場を去る。また、送迎時に玄関まで出てくるのが遅くなった利用者に対し「玄関のチャイムを鳴らしたのに聞こえなかった?」と嫌な顔をされたとのこと。不適切な発言が続き苦情となった。

対 応：面談し内容を聴取し謝罪。当該職員への接遇等への指導は度々行っているが、改善が見られない為、研修を実施する等、別のアプローチで改善を図ることを伝える。本人からは「とても良い取組だと思います。これからもよろしくお願いします。」と聞かれる。

結 果：同月、近似事例で接遇研修を実施。当該利用者より「ありがとうございます。しばらく様子を見ていきます。」との言葉が聞かれる。

【苦情②】

日 時：令和4年10月3日

申出人：利用者家族

内 容：デイを休む連絡をした際、宿直者の電話対応が強い態度で怖かった。「これから休むときはどのように連絡すればいいのか分からない。」と怖がり、利用者からは「妻は凄く怯えていた。落ち込んでいた。」と話す。

対 応：訪問し、聴取と謝罪をする。当該宿直者には口頭にて嚴重注意。

結 果：当該利用者家族からは「わざわざ謝罪に来てくれて、かえって申し訳なかった。南風の職員はみんないい人だからわかっている。これからもよろしくお願いします。」との言葉が聞かれる。当該宿直者は「電話対応には十分に気を付けます。申し訳ありませんでした。」と反省が見られる。

【ヒヤリハット・事故報告 概要の報告】

	内容	詳細	対策
4月	その他	水分摂取制限があるにも関わらず、おかわりを出してしまった。	水分摂取量・トロミ剤使用一覧表を作成し、提供時確認しやすくする。
	転倒	右の靴紐が解けていて、左足で踏んでしまい転倒。	裁縫が得意とのことで、結び目を縫って固定することとなる。
	転落	ジャンパーを着ようとして、バランスを崩し、イスから転落。	立ち上がり等、動作時は職員が見守りを実施するように心がける。
5月	転倒	適切な方法で機能訓練を実施せず、バランスを崩し転倒。	リハビリ機器の適切な操作方法を再度指導する。
	転倒	杖歩行がうまくいかず、職員が介助していたので、座り込むように転倒。	家族と話し合い、その日の状況を見て歩行器を使用することとなる。
	その他	立ち上がりの際、補助のために置いていた歩行器に頭をぶつける。	今後は、歩行器を使用せず、手すりを使用することとする。
6月	その他	洗面台に右前腕外側があたり、皮膚剥離して出血。	出血傾向があるので、家族と相談しアームカバーをすることとなる。
	その他	食形態を間違えて提供。	水分摂取量・トロミ剤使用・食形態一覧表を作成し、提供時確認しやすくする。
	転倒	歩行器から平湖横暴への移動の際転倒。	移動動作を始め、各動作レベルの維持向上を目指し、機能訓練を実施していく。
7月	その他	トロミ剤を使用しているにもかかわらず、トロミを付けずにお茶を提供。	トロミ使用者の一覧表に名前の記載がなくミスが生じた。一覧表に名前を記載。当該利用者のトロミをデイ管理としてリスク軽減を図る。
8月	エスケープ	認知症利用者の姿がなく、外のベンチで一人で休んでいるところを発見。	暇を持て余し外に出ていった様子。様子を見て、レクや手指活動を提供することとする。
	転倒	立ち上がる際、イスをうまく後ろへ移動させることができず、バランスを崩し転倒。	イスから立ち上がる際のイスの移動について訓練を実施
	転落	送迎車に乗車する際、うまく身体が上がらず、職員介助にて座り込むように転倒。	下肢筋力等が低下している方の、乗車する際のシートに座る手順を説明し実施。

9月	転落	イスに座ろうとしたところ、上手く座れずに、そのまま床にしゃがみこむように転落。	イスに座る際はテーブルとの間に足を入れてから座るように指導。訓練の実施。
	その他	ゲームで使用していたビー玉を口にいれようとしたところ、近くの利用者が止めてくれた。	周辺の利用者からの理解もあり、当該利用者の近くでビー玉を使用したゲームをやらないこととなった。
	転倒	踏み台訓練中に足の力が抜け、座り込むように転倒。	全ての利用者に定期的に「疲れたら休んでください。」という声掛けとイスの準備をする。
	その他	シップを張ったままホットパックを実施。	声かけの確認だけではなく、目視でシップの有無を確認することとする。
	誤嚥	トロミ使用者にトロミを付けずにお茶を提供した。	朝のミーティング時にトロミ使用者等、昼食・おやつの情報を確認することとする。
10月	その他	目の前のシルバーカーの存在に注意がいらず、屈んで靴を脱ぐ際に額をシルバーカーにぶつける。	認知症のためシルバーカーを使用することを覚えることができていないが、歩行状態を確認し、家族と話し合いのうえ、シルバーカーを使用せず過ごすこととする。
	与薬ミス	デイ管理の薬を内服後、自分で持ってきていた薬を再度内服してしまう。	家族と話し合い管理方法を決める。本人が薬を所持していないか確認するとともに声かけを十分に行う。
11月	その他	送迎車から降車した際、車から十分に離れていない状態でドアを閉め、当該利用者の背部に当ててしまった。	車体から離れたことを確認したうえでドアを閉めるように十分に注意していく。
12月	転倒	トイレに入ろうと方向転換した際に、バランスを崩し、壁にぶつかり座り込む。	バランスを崩しやすい利用者であることを再度周知徹底し、特に方向転換時には十分に注意し、近位見守りすることとする。
1月	転倒	イスからの立ち上がりの際、バランスを崩し転倒。後頭部を床に打つ。	できる限り見守りをし、同時に機能訓練を継続し実施していく。

2月	転倒	デイフロアーでシルバーカー歩行中、冷蔵庫に手を掛けようとして転倒。 左臀部打撲。	より安全な歩行器の使用方法和歩行状態の獲得を目指し、下肢筋力トレーニングや歩行器を使用した歩行訓練を実施。
	転落	イスに座った状態での機能訓練中、右に傾きイスから転落。	受診し、てんかんによる可能性が高い。個別対策として、バランスを崩した際にも安全に訓練が実施できるように、肘付きのイスを用意する。
3月	転倒	イスに座ろうとした際に、右に傾き転倒。	てんかんによる可能性が高いとのこと。自宅でも転倒を繰り返しており、十分に注意して近位見守りを継続していくことを周知し徹底する。
	与薬ミス	15 時内服薬を忘れる。	パーキンソン薬等、特別な時間の内服がある場合には、アラームをセットすることとなる。
	転倒	飲み物を購入する際、お金を落とし、拾おうとして床に座り込む。	下肢筋力増強訓練を継続実施。飲み物を買うにいくときは付き添うように心がける。
	転倒	歩行中に力が抜け、態勢が崩すが、職員が近位見守りしていたため、転倒せず、膝を床につく。	転倒を繰り返しており、近位見守りを実施している。今後も継続実施する。

令和4年度 指定居宅介護支援事業所南風 事業報告

1. 基本方針

例年の基本方針通り、地域の要介護者等やその家族が住み慣れた土地で安心して生活を送ることができるように適宜必要な支援を行ってきた事で、居宅介護支援の実績数は（表1）の通りとなりました。

居宅介護支援実績数（表1）＊要支援については、（ ）内が0.5換算での請求件数になっております。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護	244	244	252	248	250	251
要支援	86 (43)	89 (44.5)	89 (44.5)	87 (43.5)	89 (44.5)	92 (46)
合計	287	288.5	296.5	291.5	294.5	297

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護	256	246	249	248	241	249
要支援	90 (45)	90 (45)	89 (44.5)	89 (44.5)	91 (45.5)	90 (45)
合計	301	291	293.5	292.5	286.5	294

新規利用者の受け入れについては、現在もお断りすることなく受け入れを継続しています
そして、依頼を受けたらできるだけ早く初回訪問に行くことを心掛けています。

なかなか介護請求の250件にならず、あと一息というところでとどまっています。

原因としては、

- ① 要介護3以上になると入所になってしまい、在宅支援が終了になってしまう。
- ② 初回訪問し、アセスメントするもサービスの利用に繋がらない。終了分が請求になっていない。
- ③ 要介護から要支援の認定になってしまうケースも増えている。

初回訪問は2人で訪問し、アセスメント力を高めること、ご本人・ご家族の意向をきちんと聞き取れることを居宅の会議などで振り替えるようにしています。

サービスに繋げることが目的ではないが、何らかの心配があり、介護保険の申請に至っていることをきちんと把握する必要があると考えます。

要支援の利用者さんは、増加傾向にあり、少しお断りをしています。新津地区の受け入れは行なっています。

2. 組織体制

・常勤8.6名での体制は継続しています。

新人の介護支援専門員も1年経過し、徐々に受け入れできるケースの幅も広がっています。

また、訪問調査の協力は引き続き実施しました。

南区では調査の遅れが目立ち、訪問調査の件数の増加も含め、区役所への掛け合いも行ないました。

両デイサービスの紹介率は徐々に上がってきていると思いますが、要介護3以上の方が入所や入院になってしまうことも増えてしまったのが現状です。ショートステイに関しては、新規の紹介など行っており、件数は増加していると思われます。

3. 研修など

- ・各研修は、ほぼリモートでの研修になっておりますが、苦手意識も徐々に解消され、リモート研修にも慣れ、積極的に参加できるようになりました。

- ・他事業所との事例検討会については、浜松市連絡協議会南区支部の研修で実施しました。新型コロナも徐々に落ち着いてきたため、タイミングよく、集合研修・リモート研修を実施・参加ができると良いと思います。

- ・来年度は職員全員が更新研修とは別に何らかの研修に参加できるようにしたいと思っております。

4. 地域交流、貢献活動等

- ・新型コロナの影響で、バザール・元気で過ごそう会などの開催ができない状況が続いています。

R5年度から元気で過ごそう会・喫茶ボランティアの再開を検討しています。

5. その他

- ・主任介護支援専門員3名を有する大規模事業所の責務をして、行政や地域包括支援センター、介護支援専門員連絡協議会南区支部等各組織と連携し、地域福祉の向上に努められるよう実施してきました。

- ・来年度は主任介護支援専門員の更新を行わない職員が1名いるため、新たに1名の取得を検討していきます。

- ・地域包括支援センターとの連携も強化し、特定事業所加算を取得している居宅介護支援事業所として、困難ケースの受け入れも行なってきました。まだ、誰でも受け入れることができる状況にないため、居宅内の会議で関わり方や多職種との連携を伝えるようにしました。

- ・月に1回居宅会議の中で、事例検討会やアセスメントの振り返りを行ない、自分だったらと一人一人が意見を言えるようになってきました。

- ・年に1回職員の面接を実施し、居宅内の問題点などを聞き、会議の中で改善策を全員で一緒に考えるようにしました。ライフワークバランスが取れるような体制づくりは引き続き行なっていきます。

- ・月に1回南風の環境整備の実施も行ないました。今後も引き続き実施していく予定です。

①担当圏域の概要 (R3.10.1時点)

地区名	年齢構成				高齢化率	高齢者の内訳		要介護高齢者		
	人口	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上		前期高齢者	後期高齢者	事業対象者	要支援	要介護者
白脇地区			13, 276	5, 603	25. 6%	2, 771	2, 832			
飯田地区			7, 909	3, 204	25. 3%	1, 603	1, 601			
合計	34, 515	4, 523	21, 185	8, 807	25. 5%	4, 374	4, 433	109	413	1, 077

＜圏域の特徴＞

浜松市の高齢化率は、令和3年10月現在で28.1%であり、地域包括支援センター三和の担当圏域である飯田・白脇地区の高齢化率は25.5%である。昨年と比較すると、浜松市全体と飯田・白脇地区ともに0.3%の上昇となっている。圏域の特徴として、高齢化率が20%前後の町がある一方で、高齢化率が40%近い町があり、白脇地区では国道1号線の南北、飯田地区では国道1号線の東西で大別することができる。生産年齢人口（15歳～64歳）が多い町の周辺には、スーパー等の商業施設が充実しており、食料品や生活用品等の生活必需品の購入に困ることは少ない。一方で、生産年齢人口が少ない町の周辺には、商業施設が少なく、個人商店等の廃業により、生活必需品の確保が容易ではなく、課題といえる。

介護保険サービスでは、圏域住民のニーズに応えるだけのサービス事業所とサービス量が充足していると思われる、サービス調整が難航することは少ない。しかし、それらを調整するケアマネジャーの不足は顕著であり、特に介護予防支援においては、ケアマネジャーの選定が容易ではない。また、介護保険サービスの対象とならない高齢者が利用できるサービスや仕組みが成熟してならず、また運営主体の規模、実績に差異があり、誰しもがわかりやすく、安心して利用できるサービスになり得ていない。

地域力としては、地区社協や地区民協が組織的かつ活動的であるが、サロンやシニアクラブ等はコロナ禍の影響を受けており、活動を縮小せざるを得ない状況であるため、停滞感が否めない。それらの団体が従前の活動に近づくように、コロナ禍の状況を鑑みながら、助力していく必要がある。

＜把握している地域課題＞

- ・徒歩圏内で行ける商業施設（スーパー等）が無い地域では、運転免許返納や身体機能の低下により、商業施設に行く手段がなく、生活必需品の購入・確保が難しい。
- ・介護サービスを利用したい高齢者に対応できるケアマネジャーが不足しており、特に介護予防支援においては、ケアマネジャーの選定が難航し、結果として迅速にサービスが利用できない。
- ・コロナ禍の影響による地域活動（サロン・シニアクラブ等）の縮小や停滞により、気軽にいける居場所が不足している。

②重点目標

- ・多くの職種や機関との連携強化を図り、各種研修会や交流会等をコーディネートする。
- ・アウトリーチ活動として、サロンやシニアクラブ等地域団体への積極的なアプローチを行う。
- ・『75歳訪問』を継続し、『85歳訪問』を再開する。また、訪問できなかった令和2年度・令和3年度対象者宅に訪問する。
- ・高齢者及びその介護者を対象に、『おいへの備え』について理解を深めるため、専門講師を招き、より充実した家族介護支援事業を実施する。

・安心して暮らせる地域を目指し、生活支援体制づくり協議体の活動と連動して、地域課題を発見し、社会資源の周知・創出に努める。

④実施計画（活動内容）

業務名	実施計画	実施計画に対する達成状況
総合相談支援	① 「75 歳全戸訪問」「85 歳全戸訪問」や出張相談所「ちよこつと相談（2 か所）」「いきがい相談（1 か所）」の継続実施。また、地域の店舗と調整し、新たな出張相談所の開設を試みる。 ② 「断らない総合相談窓口」を目指し、多くの職種や機関との連携強化をする。方法として、「みなみ区 Love」等においてそれらとの連携促進を図る。また、コロナ禍の活動として、リモート開催またはハイブリッド開催を試みる。 ③ 地区社協や地区民協との顔の見える関係構築を促進し、またシニアクラブやサロン等、地域の各団体からの協力依頼に柔軟に対応することで関係性をつくり、地域に根付いた総合相談を行う。 ④ ホームページ、ブログの更新頻度を維持し、介護者世代への周知を図る。 ⑤ タブレットを活用し、画像や動画などを用いて、わかりやすく、想像がしやすい、情報提供をする。 ※①②③④⑤を行うことで地域への周知活動や啓発活動を行うとともに、ネットワークを構築し潜在ニーズの早期発見・早期対応を目指す。 【協力リスト】 (1) 「災害に対してできることを考えよう！」防災士 (2) 「コグニサイズとフリフリグッパ」地域包括支援センター三和職員 (3) 「いきいき体操＋α」いきいきトレナー (4) 「ノルディックウォーク教室」静岡県ノルディックウォーキング連盟	① 令和 4 年度も「75 歳全戸訪問」「85 歳全戸訪問」を予定していたが、コロナ禍の影響及び相談内容の複雑化等から訪問が十分にできなかった。 「ちよこつと相談（2 か所）」「いきがい相談（1 か所）」は計 50 回実施。 新たな出張相談所の開設はコロナ禍から、スーパーや金融機関等との調整ができず、未実施。 ② 「みなみ区 Love」は、南区地域包括支援センター（新津・芳川）と合同開催にて、リモート等を活用して 10 回開催し、多機関多職種との連携を図った。 ③ 地区社協や地区民協の定例会に参加し、包括業務の事例報告を通じて関係構築を行った。シニアクラブやサロン等の協力は 20 件行った。 ④ 介護者世代や地域住民等への周知を目的に、ブログの更新を計 28 回実施した。 ⑤ タブレットや PC、プロジェクターを用いてわかりやすく、想像がしやすい、情報提供を行った。 ⑥ 月 2 回のミーティングを定期開催し、予定の確認や活動の進捗状況の報告、研修報告、事業計画の立案等を協働で行った。また、毎日の朝礼等で情報共有を適宜行い、支援が停滞することが無いように配慮した。 ⑦ 初回相談は、職員 2 名以上で対応し、複数の視点から支援方法を検討した。

	(5)「老後のお金」ファイナンシャルプランナー (6)「葬儀とお金」葬儀会社 (7)「認知症サポーター養成講座」キャラバンメイ ト (8)「介護の費用」(寸劇)地域包括支援センター三 和職員 (9)「もしもの時に備えて～ACP(人生会議)」地域 包括支援センター三和職員 (10)「懐メロ歌って認知症予防」南風バンド ⑥ 毎日の始業時に業務の進捗状況の確認と共有 化を行うとともに、センター内ミーティングを 月2回実施し、事業計画の進捗状況の確認、企 画立案等を協働で行い、チーム力向上を目指 す。 ⑦ 初回面接や初回訪問は2名以上の職員で対応 し、より良い初動対応を行う。	(5)「老後のお金」ファイナンシャルプランナー (6)「葬儀とお金」葬儀会社 (7)「認知症サポーター養成講座」キャラバンメイ ト (8)「介護の費用」(寸劇)地域包括支援センター三 和職員 (9)「もしもの時に備えて～ACP(人生会議)」地域 包括支援センター三和職員 (10)「懐メロ歌って認知症予防」南風バンド ⑥ 毎日の始業時に業務の進捗状況の確認と共有 化を行うとともに、センター内ミーティングを 月2回実施し、事業計画の進捗状況の確認、企 画立案等を協働で行い、チーム力向上を目指 す。 ⑦ 初回面接や初回訪問は2名以上の職員で対応 し、より良い初動対応を行う。	
権利擁護	① 必ず2名以上の職員で対応するとともに、行政 等の複数機関で支援を行い、適切な支援を目指 す。 ② 成年後見人制度の申立てで直接支援件数は年2件 以上を目標とする。 ③ 社会福祉協議会と連携をし、日常生活自立支援 事業の情報提供、利用の支援を行う。 ④ シニアクラブ・サロン活動への協力を通して、 成年後見制度や詐欺等の消費者被害の啓発活 動を行う。 ⑤ 南区地域包括支援センター(新津、芳川)と協 働で、社会福祉士が主体となり、権利擁護の研 修会を開催する。	① 職員2名以上で対応し誤謬を防ぐとともに、 成年後見制度の申立てについては、行政や弁 護士事務所、司法書士事務所等と協力して支 援活動を行うことができた。 ② 成年後見制度の直接支援件数は2件。 ③ 日常生活自立支援事業について情報提供を 行い、社会福祉協議会と連携をした。 ④ 成年後見制度や詐欺等消費者被害の周知は、 シニアクラブやサロン活動等を通じて4回 実施した。 ⑤ 南区地域包括支援センター(新津、芳川)と 協働で、「事務委任契約」について研修会を 開催した。	
包括的・継続的ケアマネジメント支援	① 「ケアマネ情報交換会フレッシユ三和クラブ」 の継続実施と周知活動を行い、チラシを用い て、更なる周知活動を行う。また、コロナ禍の 活動として、リモート開催またはハイブリット	① 集合形式にて6回開催し、困難事例の検討等 を行った。新たな参加者が増え、また、地域 の主任介護支援専門員に運営協力を得た。 ② 南区地域包括支援センター(新津、芳川)及	

	開催を試みる。 ② 南区地域包括支援センター（新津、芳川）と地域の介護支援専門員が協働で、「社会資源マップ」の維持管理の活動を定期的に実施する。 ③ 「インフォーマルサービスを見学しよう！」ツアーを開催する。ケアプランにインフォーマルサービスをより適切に位置付けるために、地域の介護支援専門員をサロン等インフォーマルサービスへ実際に見学、体験できるように支援する。（見学先例：じいじ・ばあば食堂、地域のサロン、シニアクラブ等） ④ 演習・研修について、主任介護支援専門員と協働で企画・準備・開催を目指し、そのコーディネートを行う。	び地域のケアマネジャーと協働で「社会資源マップ」の維持管理を行った。 ③ コロナ禍の影響から、見学先の確保及び日程調整ができず、「インフォーマルサービス見学しよう！」ツアーの実施ができなかった。 ④ 南区地域包括支援センター（新津・芳川）と協働で、「BCP」「成年後見」「課題整理総括表」をテーマにして、演習・研修を実施した。また、浜松市介護支援専門員連絡協議会南区支部主催の「事例検討会」の開催に協力した。
介護予防ケアマネジメント(第1号介護予防支援事業)	① より適切なアセスメントを実施するため初回面接や初回訪問は2名以上の職員で対応する。 ② 対象者自らがサービスの選択をできるように、心身の状況に応じたサービスの複数提示する。 ③ 指定介護予防支援事業のプランを含め、職員1人当たり20件以下とする。	① 初回相談は、職員2名以上で対応し、複数の視点から支援方法を検討して、対応をした。 ② 対象者の希望等を確認し、複数の職員で支援方法を検討し、対象者が選択できるように、支援に必要なサービスを複数提示した。 ③ 職員ひとりあたり、平均7.5件（介護予防支援・ケアマネジメントA）を担当した。
在宅医療・介護連携推進	① 浜松市医師会との合同研修会は、南区地域包括支援センター（新津、芳川）と浜松市介護支援専門員連絡協議会南区支部が協働で開催する。 ② 歯科医師会との合同研修会は、南区地域包括支援センター（新津、芳川）と行政担当課が協働で開催する。 ③ 多職種連携情報交換会「みなみ区Love」は、新規参加者が増えるように呼びかけの対象を拡大し、より多くの機関との顔の見える連携づくりを目指す。また、コロナ禍の活動として、リモート開催またはハイブリット開催を試みる。	① 浜松市医師会主催のリモート研修『多問題を抱える利用者のケア・精神疾患』に、担当包括として運営に携わった。 ② 実施なし。 ③ 「みなみ区Love」は、南区地域包括支援センター（新津・芳川）と合同開催にて、リモート等を活用して10回開催し、多機関多職種との連携を図った。 ④ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を含めた家族介護支援事業は開催できず、地域のシニアクラブ等の講話のみであった。

	④ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を含めた家族介護支援事業を開催する。	
生活支援・介護予防事業推進のための基盤整備	① 「おでかけマップ」を活用して、地域活動の周知を行う。 ② 生活支援体制づくり協議体において、「居場所空白地」や「活動空白地」に新たな社会資源を創出する。 ③ 「きらきらクラブ」「さんさんクラブ」は、活動の継続と参加者による主体的な運営がされるように後方支援をする。 ④ ロコモ指導員やいきいきトレナーの資格を活かし、地域の各サロンの出張教室を開催する。 ⑤ ロコモレ普及員交流会を開催し、ロコモレグループの質の向上を図る。 ⑥ 地域のサロン活動等に付属していないロコモレサロンへ出向き、交流を深めるとともに、適宜指導等行う。	① 「居場所マップ」に係る地域住民からの問い合わせはなかったが、総合相談にて地域の活動紹介として、活用をした。 ② 「協議体」にて、社会資源の創出を目指して活動をしたが、具現化ができなかった。 ③ 「きらきらクラブ」「さんさんクラブ」は、コロナ禍の影響から休止をした期間があったものの、代表者と調整しながら、活動支援をした。また、「深層筋体操クラブ」には、定例会やトレナーとして、サロン等に参加をして活動支援をした。 ④ 地域のシニアクラブやサロン等において、「健康講座＋体操等」をテーマに活動した。また、地域の訪問看護ステーションの協力を得て活動をした。 ⑤ ロコモレサロンの新規団体は3か所。「継続団体普及員養成講座」及び「ステップアップ研修（普及員の集い）」を開催できた。 ⑥ 協力依頼がなく実施ができなかった。
認知症施策の推進	① 認知症サポーター養成講座は、小中学校や企業、地域のサロン等へ呼びかけを行い、企画分と依頼分併せて、年3回の実施を目指す。 ※ はままつあんしんネットワークを対象とした認知症サポーター養成講座開催する。 ② 認知症初期集中支援チームの活用目標を年3件とする。 ③ オレンジシールを利用している本人、家族の交流会を開催する（家族介護支援事業）。 ④ オレンジシール登録者の現況確認を年3回の頻度で行う。 ⑤ 認知症に特化した家族介護支援事業を開催す	① 認知症サポーター養成講座は計3回実施（企画3件）。キャラバンメイトとの合同開催の他、浜松市立白脇小学校4年生を対象に実施した。 ② 活用実績2件。 ③ 家族介護者交流事業として、オレンジシール利用者やその家族等を対象とした交流会を計1回実施した。認知症の家族への接し方、それらを介護する家族の想いを共有化した。 ④ 現況確認を年3回実施した。 ⑤ ③同様。

	る。		
地域見守り支援	① 見守りネットワークを対象に認知症サポーター養成講座を行い、認知症に関する理解促進を図る。 ② 高齢者ひとり歩き対応訓練早期発見事業の主体とし、地域包括支援センター(新津・芳川)と協力し、ひとり歩き高齢者への声掛け訓練を行い、地域への啓発活動とする。 ③ 圏域小中学校(白脇小学校、飯田小学校、東部中学校)にて、認知症や地域の見守りについて講座を行えるように、小中学校と調整する。	① キャラバンメイトと合同開催にて、年2回実施した。 ② 南区の認知症ひとり歩き(徘徊)模擬訓練事業の主担として、南区地域包括支援センター(新津、芳川)及び三島町見守りっこ隊の協力を得て、三島町周辺にて開催した。 ③ 浜松市立白脇小学校 4 年生を対象に認知症サポーター養成講座を実施した。	
地域ケア会議(多職種協働による地域包括援ネットワーク)	① 職種連携情報交換会「みなみ区Love」を再開・継続し、今後も連携強化を図る。また、コロナ禍の活動として、リモート開催またはハイブリッド開催を試みる。 ※ 参加者の意見を聞き取り、年間予定を作成する。 ② 個別ケース地域ケア会議を繰り返し行い、共通する課題を見出し、研修等につなげていく。 ③ 圏域ケア会議を開催し、各機関の活動の理解を目的に研修会を立ち上げ、各機関との連携の強化を目指す。	① 「みなみ区Love」は、南区地域包括支援センター(新津・芳川)と合同開催にて、リモート等を活用して10 回開催し、多機関多職種との連携を図った。 ② ケア会議3件実施。 ○個別ケア会議2件。 ・独居で認知症を疑われるが受入れを拒否し、必要な受診にもつながらない方の支援について ・被害妄想、精神疾患があるため支援が困難になる方のケースについて ③ 圏域ケア会議1件 ・専門機関の連携を深めるための研修体制の構築について	
指定介護予防支援	① より適切なアセスメントを実施するため、初回面接や初回訪問は2名以上の職員で対応する。 ② 対象者自らサービスの選択をできるように、心身の状況に応じたサービスを複数提示する。 ③ 介護予防ケアマネジメントのプランを含め、職員1人当たり 20 件以下とする。	① 初回相談は、職員2名以上で対応し、複数視点から支援方法を検討して、対応をした。 ② 対象者の希望等を確認し、複数の職員で支援方法を検討し、対象者が選択できるように、支援に必要なサービスを複数提示した。 ③ 職員ひとりあたり、平均 7.5 件(介護予防支援・ケアマネジメントA)を担当した。	

その他	① サロンやシニアクラブの立ち上げの支援、住民主体による社会資源の創出活動を支援する。また、コロナ禍で活動が縮小・停滞をしたサロンやシニアクラブの活動に協力をする。	① 「協議体」にて、社会資源の創出を目指して活動をしたが、具現化ができなかった。また、サロンやシニアクラブ等の立ち上げに繋がるような具体的な事例がなかった。その他、サロンやシニアクラブの活動には調整がつく限り協力した。
------------	---	--

事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細は作成しない。

社会福祉法人ほなみ会